OLYMPUS®

CAMEDIA
デジタルカメラ

C-4040ZOOM

取扱説明書

■ご使用前にこの説明書をお読みください。

■大切なもの（海外旅行など）をお撮りになる前には、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能することをお確かめください

はじめに

このたびはオリンパス　デジタルカメラをお買上げいただき、ありがとうございます。この説明書をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

- ●本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- ●本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。
- ●本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止されています。また、無断転載は固くお断りします。
- ●本製品の不適当な使用により、万一損害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- ●本製品の故障、オリンパス指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- ●本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、指定のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

このカメラでできること

目　次

1 準備　29

2 使い方早わかりガイド　43

3 メニューのしくみ 49

4 撮影の基本 65

目　次

5 撮影の応用 93

6 画像・画質・露出の調整 109

7 再生 123

目　次

安全にお使い頂くために

ご使用の前に、この「安全にお使い頂くために」の内容をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

危険

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。

警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

警 告

可燃性ガス、爆発性ガス等がある場所では使用しない。
可燃性ガスおよび爆発性ガス等が、大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。

フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で使用しない。
フラッシュを人の目の前（特に乳幼児）に向けて、至近距離で発光しないでください。目に近づけて撮影すると、視力障害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して、至近距離で撮影しないでください。

☞ **幼児、子供の手の届く場所に置かない。**
幼児、子供の手の届く範囲に放置しないでください。以下のような事故発生のおそれがあります。
- 誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
- 電池や小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
- 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
- カメラの動作部でけがをする。

☞ **カメラで日光や強い光を見ない。**
日光および強い光に向けて、本製品を使用しないでください。視力障害をきたすおそれがあります。

☞ **通電中の充電器、充電中の電池に長時間触れない。**
充電中の充電器や電池は温度が高くなります。また、別売のACアダプタをご使用時も長時間お使いになっていると、本体の温度が高くなります。長時間、皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

☞ **ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で使ったり、保管しない。**
このような場所でカメラを長時間使ったり保管しないでください。火災や感電の原因となることがあります。

☞ **フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない。**
フラッシュの発光部分を、手で覆ったまま発光しないでください。また、連続発光後、発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。

☞ **分解や改造をしない。**
本製品の分解、改造はしないでください。感電やけがをする原因となります。

☞ **内部に水や異物を入れない。**
万一、水に落としたり、内部に水が入ったりしたときは、火災や感電の原因になりますので、すぐにスイッチを切り電池を抜き、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。

⚠ 注 意

☞ **異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用をやめる。**
異臭、異常音、もしくは煙が出たりするなどの異常が生じた場合は、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店または当社サービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）

☞ **濡れた手で操作しない。**
濡れた手で操作しないでください。感電の危険があります。またACアダプタの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。

⚠ 注 意

☞ **持ち運びのときは、ストラップが引っかからないよう注意する。**
カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。

☞ **温度の高い所へ放置しない。**
異常に温度が高くなるところに置かないでください。部品が劣化したり、火災の原因となります。

☞ **専用のＡＣアダプタ以外は使用しない。**
カメラで指定されている専用AC アダプタ（EIAJ 規格・極性統一型プラグ付）以外は、絶対に使わないでください。カメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。また別売のAC アダプタは日本国内用です。海外ではご使用になれません。専用以外のAC アダプタの使用により生じた傷害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。

☞ **電源コードを傷つけない。**
AC アダプタのコードを引っ張ったり、継ぎ足したりは絶対にしないでください。必ず電源プラグを持って、抜き差しを行ってください。
以下の場合はただちに使用を中止し、販売店または当社サービスステーションに御相談ください。
- AC アダプタやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出た場合。
- AC アダプタのコードに傷、断線、またはプラグに接触不良があった場合。

使用条件についてのご注意

- 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。本製品を使用中または保管する場合、以下のような場所に長時間放置すると動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
  - ■高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
    直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど
  - ■砂、ほこり、ちりの多い場所
  - ■火気のある場所
  - ■水に濡れやすい場所
  - ■激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けて放置しないでください。CCDの褪色・焼きつきを起こすことがあります。
- 長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- 三脚に取り付ける際、カメラを回さないでください。
- 本体の電気接点部には手を触れないでください。
- レンズに無理な力を加えないでください。

電池についてのご注意

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、下記の注意事項を必ずお守り下さい。

⚠ 危 険

● 充電式電池は、専用のオリンパス製電池と充電器をご使用ください。電池は指定の充電器以外で充電しないでください。ご使用になる際は、電池、充電器等の説明書をよく読んで、正しくお使いください。
● 火中への投下や、加熱をしないでください。
● ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
● 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など、高温の場所で使用・放置しないでください。
● 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊や、アルカリ液の飛散が生じ危険です。
● 電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み等に、直接接続しないでください。
● 電池の液が目に入った場合は、失明の原因になります。こすらずに、すぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。
● 電池を誤って飲まないよう、乳幼児の手の届かぬ場所で保管及び使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

⚠ 警 告

● 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
● 以下の内容を守らない場合、電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがのおそれがあります。
■ このカメラで指定されていない電池を使わないでください。
■ 古い電池と新しい電池、充電した電池と放電した電池、また、容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
■ 充電できないアルカリ電池やリチウム電池、CR-V3（リチウム電池パック）を充電しないでください。
■ ＋－を逆にして装着・使用しないでください。また、機器にうまく入らない場合は無理に接続しないでください。
■ 外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れがある電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。
■ 市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池も絶対にご使用にならないでください。

●このような形状の電池はご使用になれません

シール（絶縁被覆）をすべて剥がしているもの（裸電池）、または一部が剥がされているもの

負極（マイナス面）の一部に膨らみがあるが、負極がシール（絶縁被覆）で覆われていないもの

負極（マイナス面）が平らな電池。（負極の一部がシールに覆われていても、また覆われていなくても使用できません）

- ニッケル水素電池の充電が、所定充電時間を越えても完了しない場合は、充電を中止してください。
- 液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店またはオリンパスサービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。
- 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に傷害を起こす原因になります。
- カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。
- 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。

⚠ 注 意

- 電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
- オリンパス製ニッケル水素電池はオリンパスデジタルカメラ「CAMEDIA キャメディア」専用です。他の機器に使用しないでください。
- 充電式電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。
- 充電式電池は必ず使用する電池を同時に（機種により4本または2本）充電してご使用ください。
- 電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。
- アルカリ電池は電池の銘柄、製造日からの保存期間、使用温度により内部抵抗・容量に差があるため、ニッケル水素電池やCR-V3などに比べて寿命が極端に短い場合があります。また、低温時は使えません。
- マンガン電池は使用できません。電池寿命が短いばかりでなく、電池の発熱等により本体に損害をもたらすおそれがあります。
- 電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。

● ニッケル水素電池ご使用推奨温度範囲
放電（機器使用時）：０℃〜４０℃
充電：０℃〜４０℃
保存：－２０〜３０℃
上記温度範囲外での使用は性能・寿命の低下の原因となります。保管の際はカメラから電池を取り出してください。
● 長時間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ・発熱により、火災やけがの原因となることがあります。
● 撮影条件、使用環境及び電池により撮影枚数が減少する場合があります。
● ニッカド電池などの充電式電池を含め、電池を捨てる際は、地域の規定に従って処分してください。
● 長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。特に海外では、地域によって入手困難なことがあります。

液晶モニタとバックライトについて

本製品は背面の表示には、液晶モニタを使用しています。
これらは液晶モニタに関するご注意です。

● 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりする恐れがあります。
● 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見える事がありますが、故障ではありません。
● 被写体が斜めの時、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
● 一般に低温になるにしたがってバックライトは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下したバックライトは、常温に戻ると回復します。
● 液晶モニタに使用されている液晶画面のバックライトおよびコントロールパネルには寿命があります。画面が暗くなったり、ちらつき始めたら、当社サービスステーションにお問い合わせください。（保証期間外の修理は有料となります。）
● **本製品の液晶画面は、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶画面の構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

カメラ

ズームレバー（T/W）（P. 85）
インデックス再生/拡大再生レバー
（ / ）（P. 133、134）
コントロールパネル(P. 19、20)
セルフタイマー/リモコンランプ
(P. 150、189)
リモコン受信窓（P. 189）
シャッターボタン（P. 71）
録音マイク（P. 136）
フラッシュ
(P. 90)
OLYMPUS
ストラップ取り付け部
（P. 30）
レンズ
外部フラッシュ端子（ ）(P. 185)
● 使用時はキャップを取り外します。
視度調節ダイヤル(P. 41)
DC入力端子(P. 184)
A/V出力端子
(A/V OUT (MONO))(P. 141)
コネクタカバー(P. 141)
PUSH
TO
EJECT
カードカバー
(P. 35)
USB端子(P. 171)

マクロ／スポットボタン（🌷/⊡）(P. 97、102)
プリント予約ボタン（凸）(P. 162)
消去ボタン（🗑）(P. 138)
フラッシュモードボタン（ϟ）(P. 90)
ファインダ(P. 18)
十字ボタン（△▽◁▷）
モードダイヤル
（🎥・A/S/M・P・
OFF・▶）
(P. 36、66、67、
124)
液晶モニタ
(P. 21－24)
OK／メニューボタン
(P. 50)
マニュアルフォーカスボタン
（OK）(P. 76)
AEロックボタン（P. 94）
カスタムボタン（AEL/⊡）(P. 144)
プロテクトボタン（O⊤⊤）(P. 137)
回転再生ボタン（P. 142)
液晶モニタボタン（⊡）
(P. 80)
カードアクセスランプ
(P. 71)
電池カバーロック（P. 32)
電池カバー
(P. 31)
三脚穴（P. 150)
OLYMPUS
AEL/⊡
IeR6X4 or
CR-V3X2

ファインダ表示

❶ **オレンジランプ(P. 78、90)**
- シャッターボタンを半押ししたときにこのランプが点灯すると、フラッシュが発光します。
- フラッシュが発光禁止モードで、被写体が暗く、シャッター速度が遅くなり、手振れのおそれがあるときにこのランプは点滅します。
- フラッシュを発光禁止から他のモードに変えたとき、またはフラッシュ撮影のあとにこのランプが点滅すると、フラッシュは充電中です。点滅が終わるのを待ってから、シャッターボタンを押してください。

❷ **緑ランプ(P. 78)**
- シャッターボタンを半押しして、ピントが合うと点灯します。合わないと点滅します。
- カードチェックの際、カードに異常があると点滅します。

❸ **AFターゲットマーク(P. 72)**
- このマークを被写体に合わせます。

コントロールパネル表示

❶ フラッシュモード(P. 87ー89)

● ϟ（フラッシュモード）ボタンを押してフラッシュモードを選択すると、表示されます。

表示なし：オート発光　　ϟ **SLOW**：スローシンクロ

◉：赤目軽減発光　　⊘：発光禁止

ϟ：強制発光

❷ マニュアルフォーカス(P. 76、77)

● マニュアルフォーカス機能を使って、ピントを固定しているときに表示されます。

❸ フラッシュ補正(P. 92)

● メニューでフラッシュの発光量を補正すると表示されます。

❹ 電池残量(P. 32)

● 電池残量が少なくなると、次のように表示が変化します。

● 使用する電池の種類によって、残量表示のタイミングが変わりますので、ご注意ください。

❺ カード警告(P. 37、199、200)

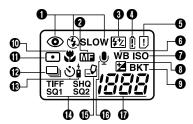
● 電源が入ったとき、カメラが自動的にカードをチェックし、カードに問題があるときに表示されます。

❻ ホワイトバランス(P. 116)

● ホワイトバランスがオート以外のモードに設定されると表示されます。

❼ ISO(P. 114)

● ISOがオート以外のモードに設定されると表示されます。また、オートに設定されていても、ISOが自動的にあがる場合には表示されます。

コントロールパネル表示（つづき）

❽ **露出補正(P. 115)**
- 露出が0以外に設定されると表示されます。

❾ **オートブラケット撮影(P. 95)**
- ドライブモードがオートブラケットに設定されると表示されます。

❿ **マクロモード(P. 102)**
- マクロモードが設定されると表示されます。

⓫ **スポット測光モード(P. 97)**
- スポット測光モードが設定されると表示されます。

⓬ **連写(P. 94)**
- ドライブモードが連写またはAF連写に設定されると表示されます。

⓭ **セルフタイマー／リモコンモード(P. 150、189)**
- セルフタイマー撮影またはリモコン撮影が設定されると表示されます。

⓮ **画質(P. 110)　（TIFF・SHQ・HQ・SQ1・SQ2）**
- 画質を表示します。
  SHQとHQの画像サイズが2272x1704より大きいときは、SHQとHQの表示は常に点滅します。

⓯ **カード書き込み**
- 撮影した画像がカードに記録されているあいだ表示されます。

⓰ **録音(P. 103、107)**
- メニューで録音モードが設定されると表示されます。

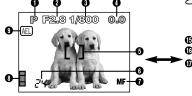
⓱ **撮影可能枚数(P. 81)**
- 撮影できる静止画の枚数を表示します。

撮影可能秒数(P. 83)
- 🎥（ムービー）モード時に一度のシャッター操作で撮影できる時間を表示します。

エラーコード(P. 37)
- カードに問題があるときに表示されます。→エラーコード表示一覧参照（P. 199、200）

液晶モニタ表示～撮影情報

表示内容は撮影モードにより異なります。

下図の情報を撮影中、常に表示。

ボタンやモードダイヤルを操作したあとや、メニューから抜けたあとに約3秒間表示されます。

＊ イラストはモードダイヤルを「P」に設定している場合

❶ 撮影モード(P. 66、67)

- モードダイヤルの位置を表示します。

  P ：プログラムモード、 **A** ：絞り優先モード、

  S ：シャッター優先モード、 **M** ：マニュアルモード、 ：ムービー（動画）モード

❷ 絞り値(P. 68)

- 絞り値を表示します。

❸ シャッター速度(P. 69)

- シャッター速度を表示します。

❹ 露出補正(P. 115)

- 露出補正値を表示します。

露出状態(P. 70)

- マニュアルモード(M) 時に設定している絞り値／シャッター速度から算出される露出値と、カメラの適正露出値の差を表示します。

❺ AFターゲットマーク(P. 80)

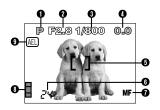
- このマークを被写体に合わせます。

❻ 撮影可能枚数(P. 81)

- 撮影できる静止画の枚数を表示します。

撮影可能秒数(P. 83)

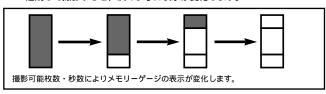
- （ムービー）モード時に一度のシャッター操作で撮影できる時間を表示します。

液晶モニタ表示～撮影情報（つづき）

❼ マニュアルフォーカス(P. 76)

- マニュアルフォーカス機能を使って、ピントを固定しているときに表示されます。

❽ メモリゲージ(P. 82、84)

- カメラの内蔵メモリにある画像の量を表示します。
  連続して撮影すると、次のように表示が変化します。

撮影可能枚数・秒数によりメモリーゲージの表示が変化します。

❾ 露出の固定(P. 98～101)

AEL：**AEロック**

- 1コマ撮影が行われるまで、露出は固定されます。撮影すると表示は消えます。

MEMO：**AEメモリ**

- 撮影後も露出は記憶されています。AEメモリが解除されるまで表示しています。

⑩ ドライブモード(P. 94)

- メニューでドライブモードが設定されると表示されます。

□ ：単写（1コマ撮影）　　　　セルフタイマー：セルフタイマー／リモコン撮影
連写 ：連写　　　　BKT：オートブラケット撮影
AF連写 ：AF連写

⑪ ホワイトバランス(P. 116)

- メニューで設定したホワイトバランスを表示します。

表示なし：オート　　　　電球：電球
晴天：晴天　　　　蛍光灯：蛍光灯
曇天：曇天　　　　ワンタッチ：ワンタッチホワイトバランス

⑫ ISO感度(P. 114)

- メニューで選択した感度（オート・100・200・400）を表示します。「オート」を選択していても、モードダイヤルをA/S/Mにすると100になります。また、「オート」を選択していても、暗いところでフラッシュを使わない場合は、手ぶれ防止のため感度は自動的に上がります。

⑬ 画質(P. 110)　　（TIFF・SHQ・HQ・SQ1・SQ2）

- 画質を表示します。

⑭ 画像サイズ(P. 111)

- 画像サイズを表示します。

液晶モニタ表示〜撮影情報（つづき）

⑮ フラッシュモード(P. 90)

- ϟ（フラッシュモード）ボタンを押してフラッシュモードを選択すると、表示されます。

  表示なし：オート発光　　ϟ：強制発光

  ◉：赤目軽減発光　　⊘：発光禁止

  ϟ SLOW1/ϟ SLOW2/◉ ϟ SLOW1：スローシンクロ

⑯ スポット測光／マクロモード(P. 97、102)

- ✿/⊡（マクロ／スポット）ボタンを押してスポット測光／マクロモードを選択すると、表示されます。

  表示なし：デジタルESP測光（初期設定）　　✿：マクロモード

  ⊡：スポット測光　　⊡✿：スポット測光+マクロモード

⑰ 録音(P. 106、107)

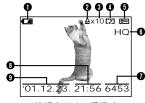
- メニューで録音モードが設定されると表示されます。

液晶モニタ表示～再生情報

画面に表示させる情報量をメニュー機能を使って選択することができます。
→情報表示(P. 132)

静止画再生情報

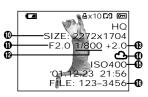
情報表示オフ選択時

情報表示オン選択時

❶ **電池残量**
- 電池の残量によって次のように表示が変化します。

残量充分　残量わずか　残量なし

- 使用する電池の種類によって、残量表示のタイミングが変わりますので、ご注意ください。

❷ **プリント予約マーク(P.163)**
- プリント予約がされていると表示されます。

❸ **プリント枚数(P.163)**
- プリント予約の枚数が表示されます。

❹ **録音マーク**
- 音声が録音されていると表示されます。

❺ **プロテクトマーク(P. 137)**
- 画像が保護されていると表示されます。

❻ **画質モード**

❼ **コマ番号**

❽ **時刻**

❾ **日付**
- 2001年は 01と表示されています。

❿ **画像サイズ**

⓫ **絞り値**

⓬ **シャッター速度**

⓭ **露出補正値**

⓮ **ホワイトバランス**

⓯ **ISO感度**

⓰ **ファイル番号**

ムービー（動画）再生情報

情報表示オフ選択時

情報表示オン選択時

❶ **電池残量(P. 25)**

❷ **ムービーマーク(P. 124)**

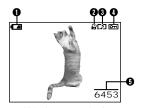
❸ **録音マーク**

- 音声が録音されていると表示されます。

❹ **プロテクトマーク(P. 137)**

- 画像が保護されていると表示されます。

❺ **コマ番号**

❻ **日付**

- 2001年は01と表示されています。

❼ **画質モード**

❽ **画像サイズ**

❾ **ファイル番号**

- ムービー再生中では、記録時間が次のように表示されます。

0" / 15"
再生している秒数　全体の秒数

注 意

●ムービーの場合は、画像を選択して表示したときと、ムービー再生中で表示内容が異なります。(P. 124、127)

本書の見方

本取扱説明書では、モードダイヤルのセット位置と使用するボタンをイラストで記載しています。記載されているモードダイヤルの位置にセットした後、それぞれのステップに示されているボタンを押し、番号にしたがってカメラを操作していきます。

●●●●●●●●●●●●●●●●●● 例1 ●●●●●●●●●●●●●●●●●●

モードダイヤルのセット位置を示しています。
（この例では、**P** にセットします。）

日時の設定

1 準備

カメラに内蔵されている時計の時間と日付の設定をします。
日時は撮影した画像と一緒に保存されますので、撮影前に正しく設定されているかを再度ご確認ください。

1 モードダイヤルをOFF以外にします。
- モードダイヤルを ▢ 以外にしていると、レンズがせり出してくるので、レンズキャップは外しておきます。

2 Ⓞ を押して、メニューを表示します。(P. 50)
- 液晶モニタが自動的に点灯します。

押します。

3 十字ボタンの▷を押して、「モードメニュー」を選択します。
- この手順以降の画面は、P モードで設定した場合のものです。

P F2.8 1/800 0.0
ドライブ
画質モード
モードメニュー
ホワイトバランス

4 ▽を押して「設定」タブを選択後、▷を押します。
- 設定メニュー項目が表示されます。

P F2.8 1/800 0.0
設定クリア ▷オン
ビープ音 ▷小
レックビュー ▷オン
ファイル名メモリー ▷リセット
ピクセルマッピング

黒く塗られているボタンを押します。（この例では右方向キーを押します。）

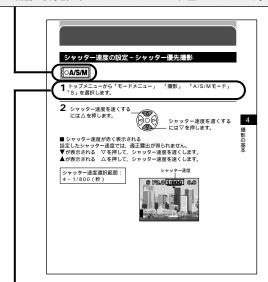
5 △▽を押して「日時設定」を選択後、▷を押します。
- 日時設定画面が表示されます。

P F2.8 1/800 0.0
モニタ調整
日時設定 '01.01.01 00:00
m/ft設定 ▷m
ショートカット設定
カスタムボタン設定

十字ボタンのどの方向キーを押すかを △、▽、◁、▷ マークで示しています。
(この例では十字ボタンの右方向キーを押します。)

本書の見方（つづき）

例2

この機能を使う前に、モードダイヤルをこの位置にセットします。

ここではメニューの使い方が示されています。矢印の順にメニューで機能を設定します。メニューを使う前に、詳細について3章「メニューのしくみ」をお読みください。

1

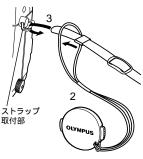
準 備

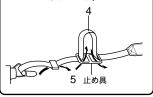
カメラを使う前には、必ずこの章の内容にしたがって準備をしてください。

ストラップを取り付ける

1 **レンズキャップにレンズキャップ用ひもをとおします。**

2 **ストラップをレンズキャップ用ひもに通します。**

3 **ストラップをストラップ取付部の金具にとおします。**

4 **あとでストラップの長さを調節するために、止め具の位置でストラップをゆるめておきます。**

5 **ストラップを図の矢印にしたがい、止め具にとおします。長さが決まったら、ストラップの先を引っ張って、ゆるみをとります。止め具のところで、ゆるまない、抜けないことを確かめます。**

6 **もう一方の金具にも手順3～5にしたがって、ストラップを取り付けます。**

注 意

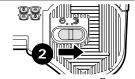
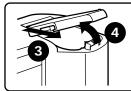
- カメラを持ち運びの際には、専用ケースに保管してください。
- カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。
- 上の図にしたがってストラップは正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れて本体を落とすなどした場合、損害など一切の責任は負いかねますのでご了承ください。

電池を入れる

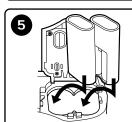
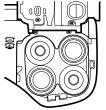
電池はCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック2個、あるいは単3ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池4本を使用します。

重要：

- **CR-V3は充電式電池ではありません。**
- リチウム電池パックCR-V3のラベルは、剥がさないでください。
  端子部に絶縁シールが貼られている場合は、そのテープのみはがしてお使いください。

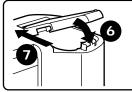
カメラの電源が入っていないことを（モードダイヤルがOFFの位置）確認します。

電池カバーロックを、⊛ の方向へスライドします。

電池カバーを矢印の方向へスライドさせます。

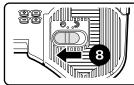
- カバーをスライドさせるときは指の腹を使ってあけてください。爪などを使うとけがをすることがあります。

リチウム電池パックをご使用のとき

単3電池をご使用のとき

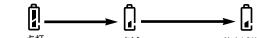
電池の方向を間違わないように挿入してください。

次ページに続く

電池を入れる（つづき）

電池カバーで電池を押さえながら閉じて、カバーの矢印の刻印と逆方向へスライドさせます。

- カバーの端を押すと、カバーが閉まりにくくなります。
- カバーは閉じた状態で固定されます。

電池カバーロックを、⊜ の方向へスライドします。

電池残量の目安

電池残量が少なくなると、コントロールパネル上の表示が次のように変化します。

点灯	**点滅**	**12秒点滅後、消灯**
電池の残量は十分にあります。	電池の残量が少なくなりました。新しい電池と交換してください。	電池の残量が完全になくなりました。新しい電池と交換してください。

- 電池残量が少ない状態で撮影を行うと撮影後や電源を入れたときに「ピピピピ・・・」と警告音が連続して鳴り、コマ番号が点滅することがあります。この場合は正常に撮影が行われていません。新しい電池に取り替え、再度撮影し直してください。

注 意

- 電池室内の電極が汚れていると、電池の寿命が著しく短くなります。電池を外した状態で内部をさわらないでください。
- 電池を外した状態で約1時間放置すると、全ての設定は初期設定に戻ります。

リチウム電池パック使用での電池寿命

撮影枚数	約400枚＊
再生時間	約360分＊

＊ 表中の数値は参考値であり保証値ではありません。

使用条件

撮影枚数

2枚連続撮影～10分放置～2枚連続撮影～10分放置の繰り返し。（常温25℃）、フラッシュ発光50％、2枚撮影につきズーム1往復、フルタイムAFオフ、デジタルズームオフ、（再生、パソコンとの通信無し。）

再生時間

自動再生モードによる連続再生、スリープ（待機状態）直後にパワーオンして、再度自動再生の繰り返し。

注 意

- 電池の寿命は、お使いの電池の種類、メーカー、カメラの使用条件などにより大きく異なります。
- パソコンと接続してお使いの場合は、別売のACアダプタのご使用をおすすめします。（P.184）
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を消費するため、撮影可能枚数が減少することがあります。
  - 液晶モニタが点灯している。
  - 撮影モードでシャッターボタンの半押しをして、オートフォーカス動作を繰り返す。
  - ズーム動作を繰り返す。
  - フルタイムAFをオンにしている。
  - 再生モードで長時間、液晶モニタを点灯する。
  - パソコンとの通信時。

カードについて

このカメラで撮影した画像は、スマートメディアに記録されます。この取扱説明書では、スマートメディアをカードと呼びます。

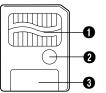
スマートメディアとは？

撮影した画像を記録するためのフィルムにあたるものです。スマートメディアに記録された画像は自由に削除したり上書きしたり、パソコンで加工することができます。

使用できるスマートメディア

- 付属の16MBの標準カード
- 別売のオリンパス製カード（4・8・16・32・64・128MB）
- 市販の3V (3.3V)カード（4・8・16・32・64・128MB）

注 意

- 2MBのカードは使用できません。
- オリンパス製以外の市販のカード（3V（3.3V）など）や、パソコンなどの他の機器でフォーマットしたカードは、このカメラで認識できないことがあります。お使いになる前に、必ずこのカメラでフォーマットしてください。(P. 37、140)
- 市販の5Vカードは使用できません。

❶ **接触面（コンタクトエリア）**
カメラが接触する部分です。

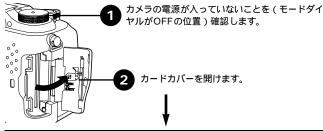
❷ **ライトプロテクトエリア**
書き込み禁止状態にしたいときは、ここに付属のライトプロテクトシールを貼ります。

❸ **インデックスエリア**
カードに保存されている内容がわかるようにここに付属のラベルを貼ります。

スマートメディアのお取り扱い上の注意

- 動作温度：0℃～55℃、保管温度：－20℃～65℃、
  動作・保管湿度：95%以下
- 保管時・携帯時は、静電気防止ケースに入れてください。
- カードを曲げたり、衝撃を与えないでください。
- スマートメディアの取扱説明書（付属）もお読みください。
- カードのコンタクトエリアには直接手を触れないでください。

カードを入れる/ 取り出す

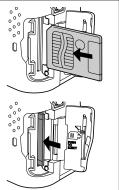
1 カメラの電源が入っていないことを（モードダイヤルがOFFの位置）確認します。

2 カードカバーを開けます。

3 カードを入れる

接触面（コンタクトエリア）を液晶モニタ側にして、カードがカチッとはまるまで奥に押し込みます。

- カードを表裏逆にしたり、入れる向きを逆にして押し込むと、抜けなくなることがあります。

3 カードを取り出す

カードを一度奥に向かって押し、取り出しやすい位置まで出てきたらつまんで引き抜きます。

4 カードカバーを閉めます。

注 意

- カメラ作動中やパソコンとの通信中には、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したり、電源プラグを抜いたりしないでください。**カード内のデータが破壊されることがあります。**
- 破壊されたデータの復旧はできません。

電源を入れる／切る

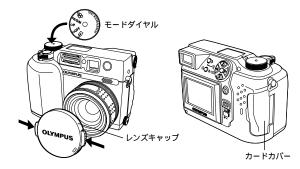
1 レンズキャップのつまみを矢印のように押してレンズキャップを外します。

2 モードダイヤルをP、A/S/M、🎥 または ▶ にします

- 電源が入ります。
- モードダイヤルを ▶ 以外に設定していると、レンズがせり出してきます。

3 モードダイヤルをOFFにします。

- 電源が切れます。

ヒント

- **カメラが動かない。**
  → 電源を入れたままで何も操作しないと、電池の消耗を防ぐため、カメラは3分でスリープモード（待機状態）に入ります。ズームレバーやシャッターボタンを操作すると動きます。

注 意

- 撮影可能枚数が0になるとピーっと音がして、液晶モニタに「撮影可能枚数が0です」と表示されます。新しいカードや空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を削除してカードに空き容量を作るなどの処理を行なってください。
- 撮影可能枚数は、撮影対象によって容量が異なるため、撮影を行っても減らなかったり、画像を削除しても増えないことがあります。

カードチェック

電源を入れると、カードチェックが自動的に行われます。

コントロールパネル	液晶モニタ	ヒント
---	カードを認識できません カード警告マーク	**カードがカメラに入っていない、またはカードが奥までしっかりと入っていません。** → カードをしっかりと奥まで差し込みます。
-E-	このカードは使用できません	**カードに問題があります。** → 新しいカードを使用します。
-F-	カードセットアップ 電源オフ フォーマット 選択 実行 OK フォーマット すべてのデータが消去されます フォーマット 中 止 選択 実行 OK	**カードがこのカメラのシステムでは読めません。** →カードのフォーマットを行います。 ① **十字ボタンの ▽ を押して「フォーマット」を選択し、 OK を押します。** ● 「フォーマット」画面が表示されます。 ② **△ を押して「フォーマット」を選択し、 OK を押します。** ● フォーマットが始まります。フォーマットが終わると、撮影する被写体の画面に変わります。

1 準備

日時の設定

カメラに内蔵されている時計の時間と日付の設定をします。
日時は撮影した画像と一緒に保存されますので、撮影前に正しく設定されているかを再度ご確認ください。

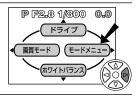
1 レンズキャップを外して、モードダイヤルを撮影モード（P・A/S/M・🎥）にします。

- レンズがせり出すのでレンズキャップは外しておきます。
- カードに画像が記録されているときは、▶ モードでも日時設定はできます。

2 ㊋ を押して、メニューを表示します。(P. 50)

- 液晶モニタが自動的に点灯します。

3 十字ボタンの ▷ を押して、「モードメニュー」を選択します。

- この手順以降の画面は、P モードで設定した場合のものです。

4 ▽ を押して「設定」タブを選択後、▷ を押します。

- 設定メニュー項目が表示されます。

5 △▽ を押して「日時設定」を選択後、▷ を押します。

- 日時設定画面が表示されます。

6 **↻ に緑の枠がついて選択されているときに、△▽を押して日付の順序を選択します。**

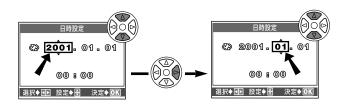
日時設定画面

- 順序は
  DMY(日・月・年)、
  MDY(月・日・年)、
  YMD(年・月・日)、
  の中から選択します。
- この手順以降は、Y-M-D に設定した場合の説明をします。

7 **▷ を押して、年(Y)の設定に移動します。**

8 **△▽を押して、年を設定します。年が確定したら、▷ を押して月の設定に移動します。**

- 「分」までの設定を同様に繰り返します。
- ◁ を押すと、ひとつ前の数値の設定位置に戻ります。

次ページに続く

日時の設定（つづき）

9 Ⓞ を押します。

- 設定メニュー画面に戻ります。
- 再度 Ⓞ を押すとメニューが消えて、撮影ができます。
- 0 秒の時報に合わせ Ⓞ を押すと、正確に時間を合わせられます。時計はこのとき動き始めます。

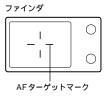
10 電源を切るときは、モードダイヤルをOFFにします。

- 撮影モードからOFFにすると、レンズが元の位置に戻ります。

注 意

- 電源を切っても、設定は変更するまで保存されます。
- 電池を抜いた状態で約1時間放置すると、設定した日付は解除されます(当社試験条件による)。この場合は再度日時の設定を行ってください。また、カメラに電池を入れていた時間が短かった場合は、これよりも早く日付けが解除されます。

視度調節～ファインダを見やすくする

視度調節ダイヤルをまわし、AFターゲットマークが鮮明に見える位置に合わせます。

カメラの構え方

両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。
レンズ、フラッシュに指やストラップがかからないようにご注意ください。ズームを使用したときは、画像がぶれやすくなるので、特に注意してください。

正しい構え方

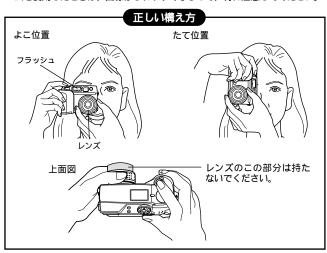
よこ位置

フラッシュ

レンズ

たて位置

上面図

レンズのこの部分は持たないでください。

2

使い方早わかりガイド

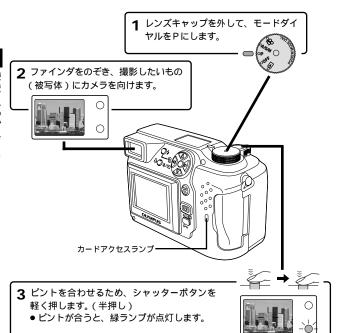
いちばん簡単な撮影と再生方法について述べています。すぐにこのカメラをお使いになりたいときに、この使い方早わかりガイドをご活用ください。
カメラを使う前には、必ず１章の内容にしたがって準備をしてください。

静止画を撮る P

1 **レンズキャップを外して、モードダイヤルをPにします。**

2 **ファインダをのぞき、撮影したいもの（被写体）にカメラを向けます。**

3 **ピントを合わせるため、シャッターボタンを軽く押します。（半押し）**

● ピントが合うと、緑ランプが点灯します。

緑ランプ

4 **撮影するには、シャッターボタンを半押しした状態から、さらにボタンを静かに押します。（全押し）**

● 緑ランプとカードアクセスランプが点滅し、カード記録が始まります。

注 意

● カードアクセスランプの点滅中には、絶対にカードカバーを開けたり、電池やカードを抜いたり、電源プラグを抜いたりしないでください。今撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊されるおそれがあります。

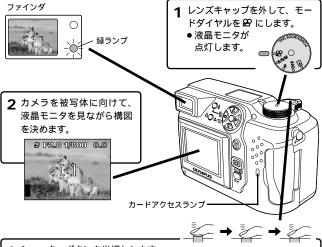
● 強い逆光などで撮影すると、画像の影の部分に色がつく場合があります。

ムービーを撮る

ファインダ

緑ランプ

1 **レンズキャップを外して、モードダイヤルを 🎥 にします。**
- 液晶モニタが点灯します。

2 **カメラを被写体に向けて、液晶モニタを見ながら構図を決めます。**

カードアクセスランプ

3 **シャッターボタンを半押しします。**
- ファインダ横の緑ランプが点灯します。

4 **シャッターボタンを全押しして、撮影を始めます。**
- オレンジランプが点灯します。
- ムービー録音 (P. 107) 機能がオンに設定されていると、音声も画像と同時に記録されます。

AFターゲットマーク

撮影可能秒数

5 **再度シャッターボタンを全押しして、撮影を終了します。**
- カードアクセスランプが点滅して、カードへの記録がはじまります。
- 表示されている撮影可能時間まで撮影を続けると、自動的に撮影を終了し、カードへの記録を始めます。

注 意

- ムービー録音機能がオンに設定されていると、撮影中のピント位置は、シャッターボタンが半押しされた時点で固定されたピント位置で固定され、撮影されます。被写体との距離が大きく変化するときは、ムービー録音をオフに設定し、音声を同時録音しないときは、常にピントの合った撮影ができます。

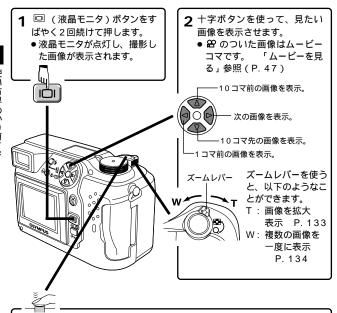
静止画を見る〜簡単再生

1 （液晶モニタ）ボタンをすばやく2回続けて押します。
- 液晶モニタが点灯し、撮影した画像が表示されます。

2 十字ボタンを使って、見たい画像を表示させます。
- のついた画像はムービーコマです。→「ムービーを見る」参照（P. 47）

ズームレバーを使うと、以下のようなことができます。

T： 画像を拡大表示→P. 133

W： 複数の画像を一度に表示→P. 134

3 撮影モードに戻るには、シャッターボタンを半押しします。
- 液晶モニタが消灯します。ファインダをのぞいて、撮影してください。

注 意

- 液晶モニタ点灯時は、3分以上何もカメラの操作をしないと、自動的に消灯します。再度、点灯させるには、 ボタンを押すか、いずれかのボタン操作をしてください。

ムービーを見る～簡単再生

1 **ムービー再生したいコマ（🎥 マークのついた画像）を表示しておきます。→P. 46の手順1、2参照**

2 **OK を押して、メニューを表示します。**

3 **十字ボタンの△を押して、「ムービープレイ」を選択します。**
- カードアクセスランプが点滅して、カードからカメラへの画像の読み出しが行われます。

4 **△または▽を押して、「ムービープレイ」画面で「ムービー再生」を選択します。**

5 **OK ボタンを押して、再生を開始します。**
- 再生が終わると、ムービーの最初に戻ります。

6 **撮影モードに戻るには、シャッターボタンを半押しします。**
- 液晶モニタが消灯します。ファインダをのぞいて、撮影してください。

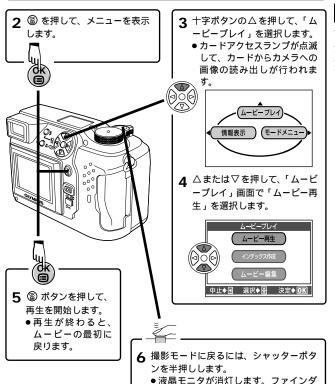
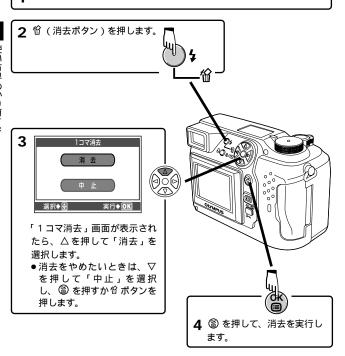
画像を消去する 🗑

1 **消したい画像を表示しておきます。****→P. 46の手順1、2**

2 **🗑（消去ボタン）を押します。**

3 **「1 コマ消去」画面が表示されたら、△を押して「消去」を選択します。**

- 消去をやめたいときは、▽を押して「中止」を選択し、OKを押すか🗑ボタンを押します。

4 **OKを押して、消去を実行します。**

注 意

- 画像を消さないためのプロテクトシールがカードに貼られていたら、剥がしてください。

CAMEDIA DIGITAL CAMERA

3

メニューのしくみ

このカメラには、メニューで設定できる様々な機能が備わっています。ここではメニューのしくみについてマスターします。

メニューについて

カメラの電源を入れてOK（OK/メニュー）を押したとき、液晶モニタに表示される画面をメニューと呼びます。OKと△▽◁▷を使ってメニューを操作していきます。このカメラで利用できる多くの機能はメニュー操作が必要となるため、メニューのしくみを理解することで、よりスムーズにメニュー機能を使った撮影を楽しむことができます。まず、下図でメニュー操作の基本的な流れをご確認ください。

OK ボタン

メニュー操作の流れ

トップメニューを表示させる（P. 51）

↓

モードメニューを選択する（P. 52） ／ **ショートカットメニューを選択する（P. 61）**

↓

撮影・画像・カード・設定のタブを選択する（P. 53）

↓

機能を選択する（P. 54）

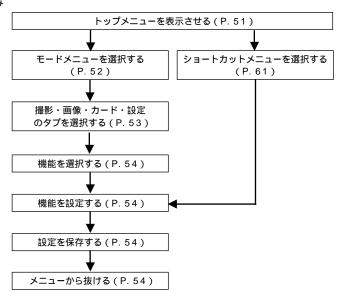
↓

機能を設定する（P. 54） ←（ショートカットメニューから）

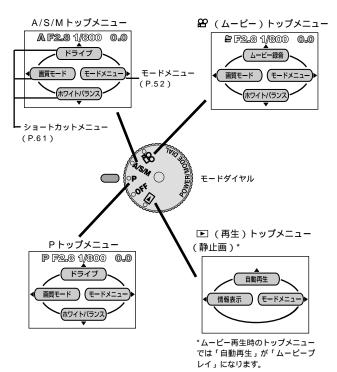
↓

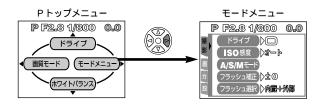
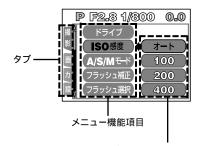
設定を保存する（P. 54）

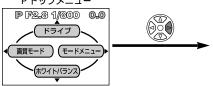
↓

メニューから抜ける（P. 54）

トップメニュー

メニューを表示させたときに、最初に液晶モニタに表示される画面を「トップメニュー」と呼びます。トップメニューはモードダイヤルの位置によって異なります（下図参照)。
トップメニュー上には大きく分けて**モードメニュー（P.52）**とその他のメニュー**（ショートカットメニュー →P.61）**があります。

*ムービー再生時のトップメニューでは「自動再生」が「ムービープレイ」になります。

モードメニュー

モードメニューを選択するには、▷を押します。モードメニュー内には使用できる全ての機能が入っていますが、モードダイヤルの位置により使える機能に制限があります。また、モードメニューの機能は働きによりさらに４つのグループ（撮影・画像・カード・設定）に分けられています。次頁の「タブについて」をご覧ください。

タブについて

モードメニューを選択すると、役割別に分けられた４つのタブが画面の左端に表示されます。△▽ボタンを使ってそれぞれのタブへ移動できます。

撮影タブ

撮：撮影
連写モードを設定したりデジタルズームを使用するなど、主に撮影時に使う機能。

画：画像
画質モードの設定やホワイトバランスの調整など、主に画像に関する機能。

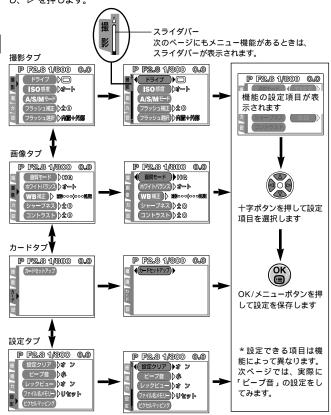
カ：カード
カードのフォーマットなど、使用するカードに関する機能。

設：設定
日時設定や、ショートカット設定など、主にカメラの設定に関する機能。

設定タブ

3
メニューのしくみ

機能を選択・設定・保存する

撮影・画像・カード・設定のいずれかのタブを選択したら、機能の選択・設定をします。選択されたタブの画面で▷を押すと、以下のようにそれぞれのタブに含まれる機能が表示されます。△▽ボタンを使って設定したい機能を選択し、▷を押します。

メニュー機能の設定例

手順に従って、実際にモードメニュー内の機能を設定してみます。以下は、モードダイヤルがPのとき「ビープ音」を「オフ」に設定する場合です。

1 モードダイヤルをPに合わせ、㊙を押してトップメニューを表示させます。

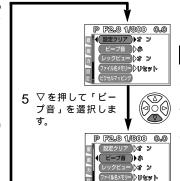
2 ▷を押して「モードメニュー」へ入ります。

左側にタブがついた画面が表示されます。

3 ▽を繰り返し押して「設定」のタブへ移動します。

タブの文字の色が変わり、▶マークの位置が選択されたところへ移ります。

4 ▷を押して「設定」の項目へ入ります。

5 ▽を押して「ビープ音」を選択します。

6 ▷を押して「オフ」/「小」/「大」を表示させます。

初期設定では「小」に設定されています。

7 △を押して「オフ」を選択します。

8 ㊙を押すと設定が完了します。撮影に戻るには、再度㊙を押します。

注意： 他の撮影モードに変えても、この設定が有効です。同じ設定項目は、各モードで別々の設定はできません。

モードメニュー機能一覧（撮影）

撮影

ドライブ ☞ P. 94、95、150、189

連写モードの切り替えや、オートブラケット撮影時の設定を行います。また、セルフタイマー/リモコンをご使用になるときも、ここで切り替えます。

ISO感度 ☞ P. 114

銀塩カメラに基づいたISO感度を、オート、または100/200/400の中から選択できます。

A/S/Mモード ☞ P. 68〜70

撮影モードをA（絞り優先撮影）、S（シャッター優先撮影）、M（マニュアル撮影）のいずれかに切り替えます。

フラッシュ補正 ☞ P. 92

被写体に合わせてフラッシュの発光量を増減できます。

フラッシュ選択 ☞ P. 186

外部フラッシュをご使用になる際、内蔵フラッシュと併用するか、または外部フラッシュのみで使用するかを選択します。

スローシンクロ ☞ P. 89

遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。

ノイズリダクション ☞ P. 121

長時間露光時に、画像に発生するノイズを軽減します。

マルチ測光 ☞ P. 98

正確な露出を得にくい撮影条件（明暗の差が大きいときなど）でも、画面の明るさを最大8ヶ所まで測り、その平均値で適正露出を算出することができます。

撮影

デジタルズーム ☞ P. 85

光学ズームの最大倍率からさらに高倍率（最大7.5倍まで）のズーム撮影が可能です。

フルタイムAF ☞ P. 75

シャッターボタンを半押ししなくても、カメラを向けている被写体に常にピントを合わせます。

AF方式 ☞ P. 74

オートフォーカスの方式を、iESP方式、またはスポット方式から選択できます。

スチル録音 ☞ P. 106

静止画像に約4秒間の音声を録音できます。

パノラマ ☞ P. 104

オリンパス標準カードを使っているとき、パノラマ撮影ができます。撮影画像の合成は、CAMEDIA Masterが必要です。

ファンクション撮影 ☞ P. 103

モノクロやセピアカラーなどの画像撮影を楽しめます。

セルフ/リモコン（ムービーのみ） ☞ P. 150、189

ムービーでのセルフタイマー撮影/リモコン撮影時に選択します。
（静止画撮影のときは、セルフタイマー／リモコンは（ドライブ）のなかにあります。）

ムービー録音 ☞ P. 107

ムービー撮影中に音声を録音できます。

画像

画質モード ☞ P. 110

撮影する画像の画質を選択します。

ホワイトバランス ☞ P. 116

光源に応じて、適切なホワイトバランスを設定できます。

WB補正 ☞ P. 118

手動による微妙なホワイトバランス設定が可能です。

シャープネス ☞ P. 119

画像の鮮鋭度を調節します。

コントラスト ☞ P. 120

画像のコントラスト（明暗の差）を調節します。

カード

カードセットアップ ☞ P. 140

カードをフォーマットします。

設定クリア ☞ P. 151

カメラに設定した機能を電源を切ったときに保持するかどうかを選択します。

ビープ音 ☞ P. 154

カメラの操作音や警告音をオフにしたり、またその大きさを設定できます。

レックビュー ☞ P. 154

撮影した画像の記録中にその画像を液晶モニタに表示するかどうかを選択します。

ファイル名メモリー ☞ P. 155

カメラ内に自動的に記録されるフォルダ名/ファイル名の付け方を選択します。

ピクセルマッピング ☞ P. 156

CCDと画像処理用回路のチェックを自動的に行う機能です。

モニタ調整 ☞ P. 82

液晶モニタの明るさを調整します。

日時設定 ☞ P. 38

日付と時間を設定します。

m/ft設定 ☞ P. 157

マニュアルフォーカス時に表示される長さの単位をメートル、またはフィートに切り替えます。

ショートカット設定 ☞ P. 147

お好みのメニュー機能をトップメニューに登録できます。

カスタムボタン設定 ☞ P. 144

カメラ本体のカスタムボタンに、使用頻度の高いメニュー機能を設定できます。

設定

モードメニュー機能一覧（再生）

再生

録音 ☞ P. 136

撮影済みの画像に音声をつけることができます（アフレコ）。

カード

カードセットアップ ☞ P. 140

カードをフォーマット、またはカード内の画像を全て消去します。

設定

設定クリア ☞ P. 151

カメラに設定した機能を電源を切ったときに保持するかどうかを選択します。

ビープ音 ☞ P. 154

カメラの操作音や警告音をオフにしたり、またその大きさを設定できます。

モニタ調整 ☞ P. 82

液晶モニタの明るさを調整します。

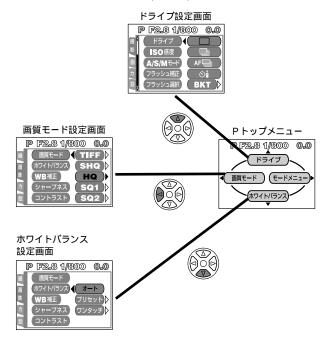
日時設定 ☞ P. 38

日付と時間を設定します。

インデックス表示 ☞ P. 135

液晶モニタに一度に表示する画像の枚数を設定します。

ショートカットメニュー

ショートカットメニューはトップメニュー上のモードメニュー以外の機能項目です。ショートカットメニューの多くはモードメニュー内に含まれている機能ですが、トップメニュー上にあることにより、途中のメニュー操作をせずにその機能の設定画面までダイレクトにジャンプできる便利な機能です。また、モードダイヤルがP、またはA/S/M に設定されているときのみ、ショートカットメニューをお好みの機能項目に変更することができます。
詳しくは「ショートカット設定」(P. 147)をご覧ください。

モードダイヤル位置によるショートカットメニュー

以下のイラストは各モードダイヤル位置で利用できるショートカットメニューを表しています。モードメニュー以外の項目がショートカットメニューです。

これらのショートカットメニューは、「ショートカット設定」(P. 147)により他の機能と置き換えることができます。機能の説明は「モードメニュー機能一覧」(P. 56〜60)をご参照ください。

ムービー録音
ムービー撮影時に音声も同時に録音します。

画質モード
撮影する画像の画質を選択します。

ホワイトバランス
光源に応じて、適切なホワイトバランスを設定できます。

自動再生
カードに記録されている画像を、連続で再生します。

情報表示
撮影した画像の情報をすべて表示するか、最小限にするかを選択します。

ムービープレイ
撮影したムービーを再生します。またそのムービーの編集やインデックス作成をすることもできます。

情報表示
撮影した画像の情報をすべて表示するか、最小限にするかを選択します。

モードダイヤル位置による初期設定

<table>
<tr><th>モードダイヤル
メニュー機能</th><th>P</th><th>A/S/M</th><th>🎥</th><th>▶</th></tr>
<tr><td>ドライブ</td><td colspan="2">単写
BKTを選択したとき：
±1.0/x3</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td>セルフタイマー／
リモコン</td><td colspan="2">–</td><td>オフ</td><td>–</td></tr>
<tr><td>ISO感度</td><td>オート</td><td>100</td><td>オート</td><td>–</td></tr>
<tr><td>A/S/Mモード</td><td>–</td><td>A</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td>フラッシュ補正</td><td colspan="2">±0</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td>フラッシュ選択</td><td colspan="2">内蔵＋外部</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td>スローシンクロ</td><td colspan="2">先幕効果</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td>ノイズリダクション</td><td colspan="2">オフ</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td>マルチ測光</td><td colspan="2">オフ</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td>デジタルズーム</td><td colspan="2">オフ</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td>フルタイムAF</td><td colspan="2">オフ</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td>AF方式</td><td colspan="2">iESP</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td>スチル録音</td><td colspan="2">オフ</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td>ムービー録音</td><td colspan="2">–</td><td>オン</td><td>–</td></tr>
<tr><td>ファンクション
撮影</td><td colspan="3">オフ</td><td>–</td></tr>
<tr><td rowspan="2">画質モード</td><td colspan="2" rowspan="2">HQ、2272x1704
（他の画質を選択したときは、次の設定になっています。TIFF: 2272x1704、SHQ: 2272x1704、SQ1: 1280x960/標準、SQ2: 640x480/標準）</td><td>HQ</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">–</td></tr>
</table>

モードダイヤル位置による初期設定（つづき）

モードダイヤル / メニュー機能	P	A/S/M		
ホワイトバランス	オート（プリセットを選択したとき：晴天）			ー
WB補正	±0		ー	
シャープネス	±0		ー	
コントラスト	±0		ー	
カードセットアップ	ー			
設定クリア	オン			
ビープ音	小			
レックビュー	オン			ー
ファイル名メモリ	リセット			ー
モニタ調整	±0			
日時設定	YMD/2001/1/1			
m／ft設定	m			ー
ショートカット設定	A：ドライブ B：画質モード C：ホワイトバランス		ー	
カスタムボタン設定	AEロック		ー	
インデックス表示	ー			9
情報表示	ー			オフ

CAMEDIA DIGITAL CAMERA

4

撮影の基本

この章を順番に読んでいくと、基本的な撮影がマスターできます。
カメラを使う前には、必ず「本書の見方」と１章「準備」をお読みください。

撮影モードの設定〜モードダイヤル

モードダイヤルをP・A/S/M・🎥 のいずれかに設定します。

● 電源が入り、レンズが前に出てくるので、レンズキャップをはずしておきます。

● A/S/Mと🎥 にすると、自動的に液晶モニタが点灯します。

○P プログラム撮影

絞り値とシャッター速度はカメラが自動的に決めて、静止画を撮影します。いちばん簡単な撮影方法です。

○A/S/M 絞り優先/シャッター優先/マニュアル 撮影

絞り値やシャッター速度を自分で決めたい場合は、A/S/Mモードにします。モードダイヤルをA/S/Mに設定したとき、どの撮影モードに設定するかは、メニュー画面での選択になります。

A（絞り優先撮影）

絞り値を自分で設定できます。シャッター速度は、カメラが自動的に設定します。絞り値（F値）を小さくすると、ピントの合う範囲が狭くなって、背景のぼけが強くなります。絞り値（F値）を大きくすると、ピントの合う範囲が前後に広くなって、背景にもピントが合いやすくなります。背景の描写に変化をつけたいときに、このモードをお使いください。

絞り値の設定→P. 68

絞り値を（F値）を小さくする

絞り値を（F値）を大きくする

S（シャッター優先撮影）
シャッター速度を自分で設定できます。絞り値は、カメラが自動的に設定します。目的に応じて、シャッター速度を設定してください。
シャッター速度の設定→P. 69

シャッター速度を速くすると、すばやい動きをとらえて、止まっているように撮影します。

シャッター速度を遅くすると、動いているものは、ぶれて撮影されます。このぶれが躍動感や動きのある仕上がりになります。

M（マニュアル撮影）
絞り値とシャッター速度を自分で設定します。適正露出かどうかは、露出レベル表示で確認できます。このモードは、適正露出にとらわれることなく、独自の撮影意図を反映することができます。
絞り値とシャッター速度の設定→P. 70

動画（ムービー）撮影

ムービーを撮影します。絞り値とシャッター速度は、カメラが自動的に決めます。被写体が移動したり、被写体との距離が変化した場合でも、カメラは常にピントと露出が正しく合うように作動します。
ムービー録音がオンに設定されていると、ピントと露出は最初に固定されます。(P. 101)

絞り値の設定～絞り優先撮影

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「A/S/M モード」→「A」を選択します。**

2 絞りを絞る（F値を大きくする）には△を押します。

絞りを開く（F値を小さくする）には▽を押します。

■ 絞り値が赤く表示される

設定した絞り値では、適正露出（正しい露出）が得られません。
▼が表示される→▽を押して、絞り値を小さくします。
▲が表示される→△を押して、絞り値を大きくします。

緑の表示：
設定した絞り値で適正露出が得られる場合

赤の表示：
設定した絞り値では適正露出が得られない場合

ズーム位置	設定範囲
広角（W側）	F1.8～F10.0
望遠（T側）	F2.6～F10.0

注 意

●フラッシュがオート発光に設定されている際、シャッター速度は、ズームでもっとも広角側（W端）で1/30秒、もっとも望遠側（T端）で1/100秒よりも低速にはなりません。

シャッター速度の設定〜シャッター優先撮影

○A/S/M

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「A/S/M モード」→「S」を選択します。**

2 シャッター速度を速くするには△を押します。

シャッター速度を遅くするには▽を押します。

■ シャッター速度が赤く表示される

設定したシャッター速度では、適正露出が得られません。

▼が表示される→▽を押して、シャッター速度を遅くします。

▲が表示される→△を押して、シャッター速度を速くします。

シャッター速度選択範囲：
4〜1/800（秒）

シャッター速度

4 撮影の基本

絞り値とシャッター速度の設定〜マニュアル撮影

○A/S/M

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「A/S/Mモード」→「M」を選択します。**

2

シャッター速度を速くするには△を押します。

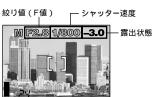
絞りを絞る（F値を大きくする）には◁を押します。

絞りを開く（F値を小さくする）には▷を押します。

シャッター速度を遅くするには▽を押します。

絞り値：1.8〜10.0（W)・2.6〜10.0（T）
シャッター速度：16〜1/800（秒）

■ **露出状態**

- 設定されている絞り値とシャッター速度から算出される露出と、カメラが算出する適正露出との露出差が－3.0〜＋3.0EVの範囲で、画面右上に表示されます。
- 露出差がー3.0EVよりも小さい、または+3.0EVより大きいときは、表示が赤くなります。
- **AEL/** を押すと、右図のような露出状態を示すバーが表示されます。シャッターボタンを半押しすると、適正露出との差を表示します。

バー表示したとき

注 意

- シャッター速度を遅くする場合は、カメラ振れを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

シャッターボタンの使い方

1 **カメラを被写体に向けます。ファインダをのぞきながら、AFターゲットマークを被写体に合わせます。**
シャッターボタンを静かに軽く押します。これを半押しといいます。

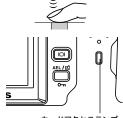
- ピントと画像の明るさ（露出）が固定されると、ファインダ横の緑ランプが点灯します。

2 **半押しした状態から、シャッターボタンをさらに押し込みます。これを全押しといいます。**

- 撮影が行われ、緑ランプが点滅します。
- P・A/S/M モードの場合：撮影した画像はカードへ記録されます。カードへの記録中は、カードアクセスランプが点滅します。
- 🎥 モードの場合：ムービーの撮影が開始します。

3 **🎥 モード（ムービー撮影のみ）**
撮影を終わらせるために、もう一度シャッターボタンを全押しします。

- カードアクセスランプが点滅して、撮影した画像のカードへの記録が始まります。カードアクセスランプの点滅中は、次の撮影はできません。

ピント

オートフォーカス

AFターゲットマークを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しすると、緑ランプが点灯します。これはピント合わせが自動的におこなわれたことを示しています。
もし、緑ランプが点滅したら、ピントは合っていません。その場合はAF方式を変えるか(P. 74)、マニュアルフォーカス(P. 76)・フォーカスロック(P. 73)をします。

ピントの合いにくいもの ～オートフォーカスの苦手な被写体

ほとんどの被写体に対してオートフォーカスが可能ですが、以下❶～❸のような条件ではピントが合わず、緑ランプが点滅することがあります。また、❹、❺のような被写体では、緑ランプが点灯し、シャッターは切れてもピントが合わないことがあります。その場合は以下の方法で撮影するか、マニュアルフォーカス(P. 76)を使用してください。

❶ 明暗の差がはっきりしない被写体
被写体と同距離にある明暗の差（コントラスト）がはっきりしたものでフォーカスロック(P. 73)した後、元の構図に戻して撮影してください。

❷ 縦線のない被写体
カメラを縦位置に構えてフォーカスロック(P. 73)した後、構図を横に戻して撮影してください。

❸ **画面中央に極端に明るいものがある被写体**
被写体と同距離にあるコントラストのはっきりしたものでフォーカスロック(P．73)した後、元の構図に戻して撮影してください。

❹ **遠いものと近いものが混在する被写体**
緑ランプが点灯しても撮影したい被写体がぼけているときは、同じ距離にあるものでフォーカスロック(P．73)してから元の構図に戻して撮影してください。

❺ **動きの速い被写体**
あらかじめ撮影したい被写体と同じ距離にあるものでフォーカスロック(P．73)してから、元の構図に戻して撮影してください。

フォーカスロック〜中央以外の被写体にピントを合わせる

AFターゲットマークを被写体に合わせていない構図では、撮影したい被写体にうまくピントを合わせることができないことがあります。このような場合は次の手順で撮影を行ってください。

P A/S/M 🎥

1 ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

同時に画像の明るさ（露出）も固定され、緑ランプも点灯します。

次ページに続く

2 **シャッターボタンを半押ししたまま、撮影したい構図に戻します。**

3 **シャッターボタンを全押しします。**

ヒント

● **緑ランプが点滅する。**
→ ピントと露出が固定されていません。いったん指をはなし、ピントを合わせる位置を少しずらして、緑ランプが点灯するまで、手順1を繰り返します。

● **ピント合わせをする構図と、露出を合わせたい構図が異なっている。**
→ AEロックを使います。(P. 100)

AF方式～ピント合わせの範囲を変える

被写体の焦点を合わせるエリアを選択します。

iESP　：画面の範囲内から、ピントを合わせる被写体を判断します。被写体が中央になくても、ピントを合わせることができます。

スポット　：AFターゲットマークで狙ったものを中心に、ピントを合わせます。

iESP

スポット

P　A/S/M

トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「AF方式」→「iESP」か「スポット」を選択します。

モードダイヤル位置による機能制限

モードダイヤル	AF 方式	初期設定
P	○	iESP
A/S/M	○	iESP
ムービー	−	−

フルタイムAF〜ピント合わせの時間を短くする

シャッターボタンを半押ししなくても、常にレンズの前のものにピントを合わせます。この機能により、シャッターを押したときのピント合わせの時間を短縮することができます。「オフ」設定時は、シャッターを半押しするまでピントは合いません。

○P ○A/S/M

1 トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「フルタイムAF」→「オン」を選択します。

2 液晶モニタを点灯させます(P. 80)。

- 液晶モニタを点灯させていないときは、フルタイムAFは作動していません。

モードダイヤル位置による機能制限

モードダイヤル	フルタイムAF	初期設定
P	○	オフ
A/S/M	○	オフ
ムービー	−	−

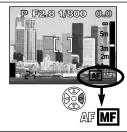
注 意

- ムービー撮影時はムービー録音をオフに設定すると、フルタイムAFの設定にかかわらず、常に被写体にピントと露出が合うように作動します。
- フルタイムAFを設定しているときは、電池寿命が短くなります。

マニュアルフォーカス〜ピントを自分で合わせる

オートフォーカスでうまくピントが合わないときは、手動でピント合わせができます。

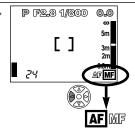
P　A/S/M　🎥

1 **Ⓞ を1秒以上押し続けます。液晶モニタにマニュアルフォーカスの撮影距離の選択画面が表示されたら、▷ を押してMFを選択します。**

2 **△▽を押して、撮影距離を選択します。**
- 操作中は、画像が拡大されます。液晶モニタの距離表示は、あくまで目安です。0.8m以下にカーソルを移動させると、自動的に20cm〜80cmの目盛りになります。

3 **Ⓞ を1秒以上押して、設定を確定します。**
- 画面に赤でMFと表示されます。

4 **撮影します。**
- ピントは設定された距離で固定されます。

5 **MFを解除するときは、再度 Ⓞ を1秒以上押して、撮影距離の選択画面を表示させます。**

6 **◁を押してAFを選択し、㊙ を押します。**
● マニュアルフォーカスが解除されます。

● **いつも同じピント位置で撮影したい。**
→ **フォーカスロックした距離に、ＭＦを固定させることができます。**
❶ 距離を合わせたいものにAFターゲットマークを合わせて、シャッターボタンを半押しします。
❷ シャッターボタンを半押ししたまま ㊙ を１秒以上押すと、撮影距離の選択画面が表示されます。このときＭＦが選択され、カーソルはフォーカスロックをした距離に設定されています。

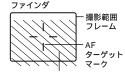
● **MFを選択して距離表示でもっとも上にカーソルを合わせても、ピントが∞（無限位置）に合わない。**
→ ファインダーを見て、△▽を少しずつ動かして調整してください。
● **設定したのに、その距離が変わった。**
→ 設定した後でズーム操作をすると、設定距離が変わることがあります。再度、設定が必要です。

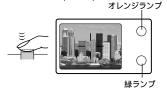
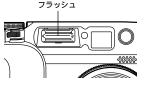
ファインダを使って静止画を撮る

ファインダをとおして決めた構図よりも、やや広い範囲が撮影されます。

○P ○A/S/M

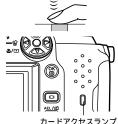
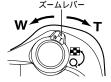
1 ファインダをのぞき、カメラを被写体に向けて、AFターゲットマーク中央に被写体を合わせます。構図を決めます。

- ファインダの撮影範囲フレームは、撮りたいものまでの距離が近づくにつれて、写る範囲が下に移動します。このような場合は、液晶モニタを使ってください。(P. 80)

2 シャッターボタンを半押しします。

- ピントと露出（画像の明るさ）が固定され、緑ランプが点灯します。
- オレンジランプが点灯したら、フラッシュが自動的に発光します。→フラッシュ撮影(P. 90)

3 シャッターボタンを全押しします。

- 緑ランプが点滅し、カード記録が始まります。緑ランプの点滅が終わると、次の撮影ができます。
- カード記録中は、カードアクセスランプが点滅します。
- 16MBカード使用時の記録可能枚数
  画質モードがHQ（2272 x 1704）のとき：約16枚
  画質モードがSQ2（640 x 480標準）のとき：約165枚

4 撮影の基本

ヒント

- **被写体を拡大するには、ズームレバーをT側へまわします。より広い範囲を撮るには、ズームレバーをW側へまわします。（P. 85）**
- **液晶モニタを使って撮影したい。**
  → 📺（液晶モニタ）ボタンを押します。（P. 80）
- **撮影ができない。**
  → オレンジランプが点滅したら、フラッシュは充電中です。充電中は、シャッターは切れません。オレンジランプが消えたら、再度シャッターボタンを押します。
  → 液晶モニタに「撮影可能枚数が0です」と表示されていると、カードに空きがありません。不要な画像を消去する（P. 138、139)、新しいカードに取り替える(P. 35)、すでに撮影した画像をパソコンに転送する（P. 170～182)などして、カードの空き容量を増やしてください。
- **被写体がAFターゲットマークから外れる。**
  → 被写体にAFターゲットマークを合わせ、フォーカスロックをします。(P. 73)
- **緑ランプが点滅している。**
  → 被写体に近づいて撮影したいときはマクロモード（最短撮影可能距離：20cm）を使います。(P. 102)
  → 被写体の条件によって、ピントや画像の明るさが固定されないことがあります。(P. 72)
- **シャッターボタンの半押しで、ピント合わせの時間を短くしたい。**
  → フルタイムAFに設定して(P. 75)、液晶モニタを使って撮影します(P. 80)。
- **露出だけを固定したい。**
  → AEロックを使います(P. 100)。これは液晶モニタを使う撮影になります。
- **撮影した画像をすぐに確認したい。**
  → レックビューをオンに設定すると、液晶モニタ上で画像を確認できます。(P. 154)
- **撮影時の音声を記録したい。**
  → スチル録音をオンに設定します。(P. 106、107)

☞ 次ページに続く

注 意

- シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すとカメラが動き、画像がぶれる原因になります。
- 電源を切ったり電池の交換や取り外しを行っても、撮影した画像はカードに保存されています。
- カードアクセスランプの点滅中には、絶対にカードカバーを開けたり、電池やカードを抜いたり、電源プラグを抜いたりしないでください。今撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊されるおそれがあります。

液晶モニタを使って静止画を撮る

液晶モニタを使うと、実際に写る範囲を確認しながら撮影できます。また、カメラのメモリゲージや絞り値、シャッター速度などの情報も確認できます。

《ファインダと液晶モニタの特徴》

	ファインダ	液晶モニタ
長所	カメラがぶれにくく、周囲が明るくても写したものがはっきり見えます。電池の消耗が少ないです。	撮影する範囲を正しく確認できます。
短所	近くのものを撮影するとき、ファインダで見える範囲と撮影できる画像とのあいだにずれが生じます。	手振れが起こりやすく、周囲が明るいときや暗い場合では、見えにくいことがあります。電池の消耗が早くなります。
こんな撮影に	スナップや風景写真など、気軽につぎつぎと撮影したいときに。	実際に写る範囲を確認しながら、撮影したいときに。被写体が0.2m～0.8mの範囲のとき（マクロ撮影）。

ファインダ

実際に撮影される範囲

- ファインダで見た構図より、実際にはやや広い範囲が撮影されます。
- 図のように写すものとの距離が近いと、実際に撮影される画面の範囲は、ファインダで見ている範囲と多少異なってきます。

○P ○A/S/M

1 **（液晶モニタ）ボタンを押して、液晶モニタを点灯させます。**

- A/S/M モードでは、自動的に液晶モニタが点灯します。

2 **カメラを被写体に向けて、液晶モニタを見ながら、AFターゲットマークを被写体に合わせます。構図を決めます。**

3 **シャッターボタンを半押しします。**

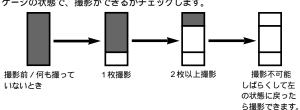
- 緑ランプが点灯します。この状態でカメラは適正な露出とピントを決定します。
- オレンジランプが点灯すると、フラッシュは自動的に発光します。→フラッシュ撮影 (P. 90)

4 **シャッターボタンを全押しします。**

- メモリゲージの一番下が点灯し、カードアクセスランプが点滅して、カード記録が始まります。

静止画を撮る P A/S/M （つづき）

連続して撮影すると、メモリゲージは次のように表示が変化します。メモリゲージの状態で、撮影ができるかチェックします。

撮影前／何も撮っていないとき　1枚撮影　2枚以上撮影　撮影不可能 しばらくして左の状態に戻ったら撮影できます。

ヒント

● **液晶モニタが点灯しない。**
→ 30秒以上何も操作をしないと、液晶モニタは消灯します。シャッターボタンやズームレバーを操作すると再び点灯します。

● **液晶モニタが見にくい。**
→ 晴天下のように明るい場所で撮影したとき、縦スジが入ることがあります。この場合は、ファインダをお使いください。

● **液晶モニタを明るく／暗くしたい。**
→ ❶ トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「モニタ調整」を選択します。
❷明るくするには、△を押し、暗くするには、▽を押します。設定が決まったら、OKを押します。

● **液晶モニタよりファインダを使う撮影のほうが、カメラぶれが起こりにくいです。**

● **「ファインダを使って静止画を撮る(P. 79)」の「ヒント」もお読みください。**

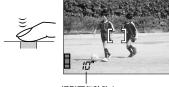
注 意

●液晶モニタの使用は、ファインダの使用よりも電池を消耗します。
●液晶モニタを点灯させて長時間撮影を続けると、画像にノイズが出る場合があります。

ムービー（動画）を撮る

1 **カメラを被写体に向けて、液晶モニタを見ながら、構図を決めます。**

2 **シャッターボタンを半押しします。**
- 緑ランプが点灯します。

3 **シャッターボタンを全押しして、撮影を始めます。**
- ムービー撮影中は、音声も同時に記録できます。→ムービー録音(P. 107)
- ピントはシャッターボタンを半押ししたときに固定され、撮影中もそのピントは変わりません。ムービー録音をオフにすると、撮影中もピントを合わせます。

撮影可能秒数＊

＊ 表示される撮影可能時間は、1回のシャッターボタンの全押しで、連続して撮影できる時間です。カードに記録できる全時間ではありません。

次ページに続く

4 再度シャッターボタンを全押しして撮影を終了します。

- カードアクセスランプが点滅して、カードへの記録が始まります。ランプの点滅中は、次の撮影はできません。
- カードアクセスランプの点滅が終わると、カードへの記録は終わりです。カードに空き容量があれば、撮影可能秒数が表示され、次の撮影ができます。
- 表示されている撮影可能時間まで撮影を続けると、自動的に撮影を終了し、カードへの記録を始めます。

連続して撮影すると、メモリゲージは次のように表示が変化します。

撮影終了後、なおこの表示が出ているときは次の撮影はできません。

ヒント

● **撮影ができない。**

→ メモリーゲージが点灯していませんか？点灯中はカードへの記録を行っています。メモリーゲージが全て消灯するまで待って、次の撮影に進んでください。

→「撮影可能枚数が0です」と表示されていると、カードに空きがありません。不要な画像を消去する（P. 138、139)、新しいカードに取り替える(P. 35)、すでに撮影した画像をパソコンに転送する(P.170～178)などして、カードの空き容量を増やしてください。

注 意

- ムービー撮影中はピントは固定されるので、被写体との距離が大きく変わる場合は、ピントがはずれることがあります。ピントを合わせるには、ムービー録音をオフにします(P. 107)。ピントは常に合うように動作します。
- 🎥 モードのときは、ムービー録音の初期設定はオンです。ズームはもっともW側に固定され、デジタルズームのみが働きます。ムービー録音をオフにすると、光学ズームのみが働きます。

ズーム～望遠や広角撮影をする

ズーム倍率3倍（光学ズーム）まで、望遠や広角撮影が行えます。デジタルズームと組み合わせて使用すると7.5倍相当（35mmカメラ換算：35mm～260mm）の撮影が可能です。

広角
ズームレバーをW側にしたとき

W → T

望遠
ズームレバーをT側にしたとき

デジタルズーム

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「デジタルズーム」→「オン」を選択します。**

2 **ズームレバーをT側にまわします。**
- 液晶モニタが点灯します。
- 液晶モニタをオフにすると、1倍に戻ります。

次ページに続く

【ズームの領域】

デジタルズーム

光学ズーム

オン時

ズームの拡大率によって、上下に移動します。

モードダイヤル位置による機能制限

モードダイヤル	デジタルズーム	初期設定
P	○	オフ
A/S/M	○	オフ
🎥 ＊	ー	ー

＊ 🎥 モードでは、
ムービー録音(P. 107)がオンのときは、デジタルズームのみが働きます。
ムービー録音がオフのときは、光学ズームのみが働きます。

- 🎥 モードのときは、ムービー録音の初期設定はオンです。ズームはもっともW側に固定され、デジタルズームのみが働きます。ムービー録音をオフにすると、光学ズームのみが働きます。

注 意

- デジタルズームの領域で撮影すると、画質が粗くなる場合があります。
- 光学ズームを使うには、ムービー録音をオフに設定してください。このとき、デジタルズームは使用できません。
- 高倍率になるほど手ぶれが起こりやすくなります。手ぶれ防止のため、三脚を使うなどして、カメラを固定してください。

フラッシュ撮影

撮影状況・目的に合わせてフラッシュモードをお選びください。被写体にあわせてフラッシュの発光量を補正することもできます（P. 92）。
外部フラッシュの使用方法については、P. 185〜188をご覧下さい。

フラッシュモードには、次の種類があります。

オート発光

暗いときや逆光のときに、自動的に発光します。

赤目軽減発光

本発光の前に10数回予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。予備発光をする以外はオート発光と同じです。

目が赤く写ります。

注 意

- 最初のフラッシュ発光からシャッターが切れるまで、約1秒かかりますので、途中で動かさないようカメラをしっかり構えてください。
- フラッシュを正面から見ていない場合、予備発光を見ていない場合、被写体までの距離が遠い場合や、個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

強制発光

必ず発光させたいときに。
木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときなどに使います。

注 意

- 非常に明るい状況下では効果があらわれにくくなることがあります。

発光禁止

暗いところでも発光させたくない時に。このモードでは暗くてもフラッシュは光りません。美術館などのように、フラッシュを使えない場所や夕景・夜景などを撮影するときに使います。

注 意

●暗いところの撮影ではシャッタースピードが長くなりますので、カメラぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。

スローシンクロ　SLOW1　SLOW2　SLOW

遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。通常のフラッシュ撮影では、手ぶれを防ぐためシャッター速度が遅くならないように設定されています。このとき夜景などをバックに撮影すると、背景はフラッシュの光が届かないため、暗くつぶれてしまいます。遅いシャッター速度で背景を写し込むことができ、被写体と背景を両方撮影することができます。

■ **先幕効果（先幕シンクロ）：ϟ SLOW1**
フラッシュはシャッター速度にかかわらず、シャッターが開いた瞬間（直後）に光るようになっています。これを先幕シンクロといい、一般的にフラッシュ撮影はこの方法で行なわれます。初期設定は「先幕効果」です。
■ **後幕効果（後幕シンクロ）：ϟ SLOW2**
先幕シンクロに対して、シャッターが閉じる直前にフラッシュが光るようになっています。フラッシュを発光させるタイミングを変えることで、夜間走行中の車のテールライトが後方に流れる様子を表現するなど、作画に変化をつけることができます。シャッター速度がより遅いほうが効果的です。
もっとも遅いシャッター速度は、撮影モードやノイズリダクションの設定により異なります。
Sモード：4秒　　　Mモード：16秒
P/Aモード：1秒（ノイズリダクションオフ)、
　　　　　　4秒（ノイズリダクションオン）

シャッター速度が４秒に設定されたとき

■ **赤目先幕：👁 ϟ SLOW**
スローシンクロを使ってフラッシュ撮影をしながら、赤目軽減発光も使いたいときに「赤目先幕」を選択します。
例えば、夜景などの暗い被写体を背景にして人物を写すと、赤目現象が出やすくなります。この機能では、後幕シンクロでは予備発光から撮影までが長くなり赤目軽減効果が得られにくいため、先幕シンクロのみの設定となります。

スローシンクロを設定する

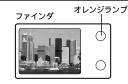
○P ○A/S/M

トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「スローシンクロ」→モード（先幕効果、赤目先幕効果または後幕効果）を選択します。

フラッシュを使う

P A/S/M

1 **使いたいフラッシュモードの表示が出るまで、繰り返し⚡（フラッシュモード）ボタンを押します。**
- フラッシュモードの表示は、次のように切り替わります。

2 **シャッターボタンを半押しします。**
- フラッシュが発光する前には、オレンジランプが点灯します。

3 **シャッターボタンを全押しします。**
- フラッシュが発光します。

フラッシュの到達距離

広角時：約0.8m〜5.6m
望遠時：約0.2m〜3.8m

モードダイヤル位置による機能制限

モードダイヤル		フラッシュモード	初期設定
P		○	オート
A/S/M	A	○	オート（先幕効果）
	S	オート、赤目軽減、スローシンクロ、発光禁止	オート（先幕効果）
	M	スローシンクロ、発光禁止	発光禁止
🎥		―	―

● **フラッシュが発光しない。**

→次の場合は発光しません。被写体が明るいとき・ムービー撮影モード・連写(P. 94)・ファンクション撮影の白板・黒板モード(P. 103)・パノラマ撮影（P. 104)

● **オレンジランプが点滅した。**

→フラッシュは充電中です。シャッターは切れません。いったん、シャッターボタンから指をはなし、ランプが消えてから撮影します。

● **フラッシュ自動発光時のシャッター速度について（オート発光・赤目軽減発光・強制発光）**

オレンジランプが点灯するとフラッシュは自動発光しますが、シャッター速度はその時点の秒時（最も遅い秒時）に固定され、それより遅くはなりません。また、固定される秒時はズームの位置によって変わります。

ズーム位置	シャッター速度
W端	1/30秒
T端	1/100秒

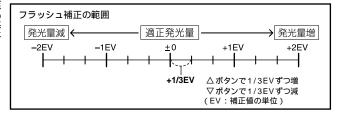
注 意

●マクロ撮影時、特にズームがW（広角）側にあるときは、画面内で光の量がムラになることがあります。撮影後、必ず再生して確認してください。コンバージョンレンズを使用すると、影ができたり、光がけられるためフラッシュは使用できません。

フラッシュ補正

フラッシュの発光量を増減することができます。
撮影する被写体が小さい、被写体の背景が遠いなど、場合によってはフラッシュの発光量を調節した方がよいときがあります。また、明暗差（コントラスト）を意図的につけたいといった場合にも、この機能が便利です。

P A/S/M

トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「フラッシュ補正」を選択し、発光量を多くするには、△を押し、減らすには、▽を押します。設定が決まったら、Ⓞを押します。

コントロールパネル

モードダイヤル位置による機能制限

モードダイヤル	フラッシュ補正	初期設定
P	○	± 0
A/S/M	○	± 0
🎥	–	–

注 意

●シャッター速度が速い場合は、フラッシュ発光量補正の効果が十分に得られないことがあります。

5

撮影の応用

測光モードや特殊効果で画像に変化をつけるなど、さらに進んだ撮影方法を説明します。

連写機能

連続撮影（連写）には、連写・AF連写・オートブラケットの3種類があります。連写は、メニューのドライブモードを切り換えることで設定できます。

ドライブモード

単写 □	：一度のシャッターボタンの全押しで、1コマだけ撮影されます。（通常の撮影モード、1コマ撮影）
連写 ⧉	：連写・AF連写をする→P.94
AF連写 AF⧉	：連写・AF連写をする→P.94
セルフタイマー/リモコン	：セルフタイマー撮影→P.150、リモコン撮影→P.189
オートブラケット BKT	：オートブラケット撮影→P.95

連写・AF連写をする

連写 ⧉ ：最初の1コマで、ピント・明るさ（露出）・ホワイトバランスが固定されます。

AF連写 AF⧉ ：1コマごとに、ピントが測定され、固定されます。連写速度は遅くなります。

P **A/S/M**

1 トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ドライブ」→「⧉」または「AF⧉」を選択します。

2 撮影します。

- シャッターボタンを全押ししている間は連写が続きます。指をはなすと連写が止まります。
- 連写速度(HQモード)：約2コマ／秒、連写可能枚数：最大8枚

注 意

●P. 96の「注意」と「モードダイヤル位置による機能制限」をお読みください。

オートブラケット撮影
〜1コマごとに露出を自動的に変えて連写する

状況によっては、カメラが算出する最適な露出で撮影するより、露出を補正して撮影をするほうが、良い仕上がりになる場合があります。オートブラケット撮影が設定されると、一度のシャッターボタンの全押しで1コマごとに自動的に露出を変えて撮影できます。変化させる露出差は、メニューで選択します。ピントとホワイトバランスは最初の1コマで固定されます。

例：BKT設定が±1.0、X3 の場合

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ドライブ」→「BKT」を選択します。**

2 **△▽を押して、コマごとの明るさ（露出）の段階（±0.3、±0.6、±1.0）を選択し、▷を押します。**

3 **△▽を押して、撮影枚数（x3、x5）を選択し、Ⓞを押します。**

- 画像サイズと画質（標準／高画質）の組み合わせにより、x3しか選択できない場合があります。

次ページに続く

4 撮影します。

●設定枚数の撮影が終わるまで、シャッターボタンを全押しし続けます。途中でやめるときは、シャッターボタンをはなします。

コントロールパネル

オートブラケット撮影

モードダイヤル位置による機能制限

モードダイヤル	ドライブ	初期設定
P	○	単写
A/S/M	○（M:BKT不可）	単写
🎥	ー	ー

注 意

●以下の設定では、連写（□、AF□、BKT）はできません。
ー 画質モードがTIFF(P. 110)やSHQのプリント拡大(P. 113)
ー ノイズリダクションの設定がオン

●連写モード時は（連写・AF連写・オートブラケット）、内部フラッシュは発光しません。

●オートブラケット撮影では、カードの空きが設定枚数以上ないと、続けて次の撮影をすることはできません。

●ISO感度設定を200以上に設定して撮影すると、条件によっては画像にノイズが写ることがあります。(P. 114)

●連写中に、電池を消耗して電池残量マークが点滅したら、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。

●シャッター速度はカメラぶれを抑えるため最長1/30秒に設定されています。そのため暗い被写体では露出不足の画像になります。

●外部フラッシュ使用時は、連写速度に追従できる設定をおすすめします。

測光モード～被写体の明るさを測る

被写体の明るさを測る方法には、デジタルESP測光・スポット測光・マルチ測光の3種類があります。
デジタルESP測光→測光構図の中央部と周辺部を別々に測光し、演算して最適な露出を求めます。カメラは通常、この設定になっています。
マルチ測光→P. 98

スポット測光～測光の範囲を選択

ファインダーのAFターゲットマークの範囲を測光し、露出を決定します。逆光などで被写体が暗くなるときに、背景の光などに影響されることなく、被写体を適正露出で撮影できます。マクロ撮影の範囲内でも、スポット測光はできます（スポット測光＋マクロモード）。

○P ○A/S/M ○🎥

1 コントロールパネルに⊡（スポット測光）または⊡🌷（スポット測光＋マクロモード）が表示されるまで、🌷/⊡（マクロ／スポット）ボタンを繰り返し押します。

🌷：マクロモード→P. 102

2 撮影します。

撮影可能距離（m）
通常（マクロ撮影以外）　：0.8～∞
マクロ撮影　：0.2～0.8

モードダイヤル位置による機能制限

モードダイヤル	スポット測光/マクロモード	初期設定
P A/S/M 🎥	○	デジタルESP

注 意

●強い逆光などで撮影すると、画像の影の部分に色がつく場合があります。

マルチ測光～画面の複数の位置の露出を測る

明暗の大きい被写体などで適正露出が出にくい場合、被写体の数カ所（最大8回まで）を測光し、その平均値で撮影条件を決めます。

○P ○A/S/M

1 **（A/S/Mモードでお使いの場合）**
トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「A/S/Mモード」→「A」か「S」を選択します。

2 **（マクロ/スポット）ボタンを押して、スポット測光モードにします。****（P. 97）**

3 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「マルチ測光」→「オン」を選択します。**

4 **露出を測りたいところにAFターゲットマークを向け、AEL/ ボタンを押します。最大8箇所まで測光することができます。**

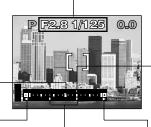
- 液晶モニタにマルチ測光を示すバーが表示されます。
- 9回目以降の操作は、無視されます。
- マルチ測光値を取り消す
  AEL/ ボタンを1秒以上押して、MEMO と表示させます。再度、**AEL/** ボタンを押して、すぐにはなします。

5 **撮影します。**

例： 2つのポイントを測光した場合（**AEL/**ボタンを2回押した場合）

2回の測光の平均値から算出されたシャッター速度／絞り値。さらにポイントを測光して、平均値を出すたびに、ここの数値は更新されます。

2回の測光の平均値。バーの中央は、常に測光したポイントの平均値を示します。

レンズを向けている被写体を測光して、平均値との差を表示します。シャッターボタンを半押しすると、測光値は固定され、このマークは止まります。（**AEL/**を押さないと、平均値の計算にはここの値は含まれません。）

AEL/を押したポイントの測光値。◆の数は、押した回数分表示されます。測光値と平均値との差の分だけ、バーの中央から離れた位置に◆が表示されます。

平均値を示すバーの中央から、◆が±3以上離れると、◁▷が赤く表示されます。

● **マルチ測光ができない。**
→デジタルESPでは、できません。スポット測光またはスポット測光＋マクロモードに設定してください。

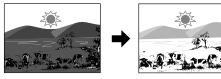
● **マルチ測光値を撮影後も記憶させたい（AEメモリ）**
→手順4で必要回数**AEL/**ボタンを押したら、再度、**AEL/**ボタンを1秒以上押します。MEMO と表示されます。MEMO が表示されている間は、露出は記憶されています。

注 意

●途中で以下のボタンを操作すると、マルチ測光値は取り消されます。
モードダイヤル、（フラッシュモード）ボタン、 /（マクロ/スポット）ボタン、ボタン

5 撮影の応用

AEロック〜露出を固定する

被写体のコントラストが強いときなど、適正露出が得られないときに使います。例えば、太陽が構図の中にあって、自動露出では被写体が暗くなってしまうときには、太陽が入っていない構図にして露出を測り **AEL/** ボタンを押して、測光値を一時的にロックします（露出を固定します）。その後、太陽を入れた構図に戻して撮影します。露出を合わせたい構図と撮影したい構図が、異なるときに使える機能です。

○P ○A/S/M

1 **（A/S/Mモードでお使いの場合）**
トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「A/S/Mモード」→「A」か「S」を選択します。

- 撮影メニューの「マルチ測光」はオフにします。「オン」だとAEロックはできません。(P. 98)

2 **測光値をロックしたい（露出を固定したい）構図にして、AEL/ ボタンを押します。**

- AEロックをやめるには、再度 **AEL/** ボタンを押して、すぐにはなします。もう一度違った露出を固定したいときは、再度構図を決めて **AEL/** ボタンを押します。押すたびに、ロックと解除が繰り返されます。
- AEロックをしていたのに、解除されてしまった。→ ヒント（P. 101）

3 ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせ、シャッターボタンを半押しします。

● 緑ランプが点灯します。

AEロック中は AEL と表示されます。シャッターボタンの半押し中は、AEロックを解除できません。

4 シャッターボタンを全押しします。

● 撮影後AEロックは解除され、AEL の表示は消えます。

モードダイヤル位置による機能制限

モードダイヤル	AEロック	初期設定
P	○	ー
A/S/M	○（Mモード不可）	ー
🎥	ー	ー

ヒント

● **ロックした測光値を撮影後も記憶させたい（AEメモリ）。**
→ 手順2か3のあとで、**AEL/**ボタンを1秒以上押します。MEMO と表示されます。MEMO が表示されている間は、露出は記憶されています。AEメモリを解除するには、**AEL/**ボタンを押してすぐにはなします。

● **AEロックができない。**
→ メニューが表示されています。メニューから抜けてください。(P. 54)
→ マルチ測光がオンになっています。オフに設定します。(P. 98)

● **AEロックをしていたのに、解除されてしまった。**
→ モードダイヤルの位置が変えられています。
→ 電源を切って入れ直してます。ただし、スリープ動作では、解除はされません。
→ スポット測光／マクロモード・ドライブモード・フラッシュモードが変更されています。
→メニューが表示されています。（OKボタンが押された）

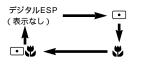
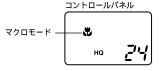
マクロ撮影～近くのものを撮る

ズームをもっとも広角(W)側にして、被写体に20cmの距離まで近づいて、名刺サイズをほぼフレームいっぱいに撮影できます。
被写体をクローズアップするときに、画面中央部(AFターゲットマークの範囲）を測光し、被写体を適正露光で撮影すると、きれいな画像が撮れます（スポット測光＋マクロモード)。→スポット測光（P. 97)
被写体の距離が近いと、ファインダ内の画像と実際に写る範囲にずれが生じます(P. 78)。液晶モニタを使って撮影することをおすすめします。(P. 80)

通常撮影で撮った画像

マクロで撮った画像

P　A/S/M　🎥

1 **コントロールパネルに🌷（マクロモード）または⊡🌷（スポット測光＋マクロモード）が表示されるまで、🌷/⊡（マクロ／スポット）ボタンを繰り返し押します。**

2 **撮影します。**

撮影可能距離（m）

通常（マクロ撮影以外）　：0.8～∞
マクロ撮影　：0.2～0.8

モードダイヤル位置による機能制限

モードダイヤル	スポット測光/マクロモード	初期設定
P	○	デジタルESP
A/S/M	○	デジタルESP
🎥	○	デジタルESP

ファンクション撮影～モノクロやセピア色などで撮る

特殊効果をつけて撮影することができます。次の４種類から選択することができます。

モノクロ ：白黒に撮影できます。
セピア ：セピア色に撮影できます。
白板 ：白黒写真になり白板に書いた黒字が強調され、読みやすくなります。
黒板 ：白黒写真になり黒板に書いた白字が白黒反転して強調され、読みやすくなります。

○P ○A/S/M ○

トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ファンクション撮影」→モードを選択します。

モードダイヤル位置による機能制限

モードダイヤル	ファンクション撮影	初期設定
P	○	オフ
A/S/M	○	オフ
	モノクロ・セピアのみ	オフ

ヒント

● **「白板」「黒板」を選択しても、文字がきれいに撮影されない。**
→露出補正をします。（P. 115）

注 意

●「白板」「黒板」を選択すると、フラッシュは（発光禁止モード）になります。（P. 88）
●ホワイトバランスとＷＢ補正の設定はできません。

5 撮影の応用

パノラマ撮影

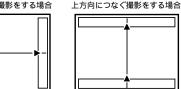
オリンパス標準スマートメディアを使うと、パノラマ撮影が簡単に楽しめます。被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を、CAMEDIA Master（別売）でつなぎ合わせ、一枚のパノラマ合成画像を作成することができます。

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「パノラマ」を選択します。**

2 **▷を押します。**
- パノラマ撮影モードになります。

3 **十字ボタンを押して、つなげる方向を上下左右4方向から指定します。**
- つなげる方向が表示されます。

右方向につなぐ撮影をする場合

上方向につなぐ撮影をする場合

4 **被写体の端が重なるようにして、撮影します。**
- ピント・露出・ホワイトバランスは1枚目で決定されます。一枚目の撮影には、太陽を入れた被写体などを選ばないでください。
- １枚目を撮影した後は、ズーム操作をしないでください。つなぎ合わせができなくなります。
- 最大10枚までのパノラマ撮影が可能です。

前に撮影した画像の右端(左回りの時は左端)に重なるように撮影してください。

5 **パノラマ撮影を終わるときは、 Ⓞ ボタンを押します。**
- 画面内の枠が消えて、通常の撮影モードに戻ります。

モードダイヤル位置による機能制限

モードダイヤル	パノラマ撮影	初期設定
P	○	ー
A/S/M	ー	ー
🎥	ー	ー

注 意

- パノラマ撮影では、フラッシュは発光しません。
- オリンパス製の標準カード以外のカードでは、パノラマモードは使えません。
- パノラマ合成はカメラ本体ではできません。パノラマ合成画像を作成する場合は、CAMEDIA Masterをご使用ください。
- HQ/SHQモードで多量のパノラマ撮影を行うと、パソコンがメモリ不足になることがあります。
- TIFF(非圧縮)でパノラマ撮影をすると、同じ画像サイズのJPEG(圧縮)で記録されます。
- パノラマ撮影中にモードダイヤルを操作すると、パノラマモードは解除され通常の撮影モードに戻ります。

スチル録音

静止画撮影時に、音声を録音することができます。シャッターが切れてから約0.5秒後に音声を記録し始め、約4秒間録音されます。
この設定を「オン」にしておくと、毎回撮影後に録音を自動的に行います。

○P　○A/S/M

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「スチル録音」→「オン」を選択します。**

2 **シャッターボタンを押して録音が始まったら、カメラのマイクを録音したい対象へ向けます。**

- 録音中を示す画面が表示されます。

モードダイヤル位置による機能制限

モードダイヤル	スチル録音	初期設定
P	○	オフ
A/S/M	○	オフ
🎥	ー	ー

ヒント

- **静止画再生時に、後から音声を追加（アフレコ）できます（P.136)。また、撮影時に録音された音声を録音し直したりすることもできます。**

注 意

- 対象がカメラから1ｍ以上離れると、きれいに録音されません。
- 録音中は、次の撮影はできません。
- 画質がTIFFに設定されているときは録音できません。（再生時のアフレコはできます。）
- ドライブモードが連写、AF連写、またはBKT（オートブラケット）に設定されているときは録音できません。
- 録音中にボタン操作などを行うと、その音が録音されてしまうことがあります。

5 撮影の応用

ムービー録音

ムービーの撮影と同時に音声を録音することができます。
ムービー録音が「オン」に設定されている時は、撮影中の光学ズームはできません。

1 **トップメニューから「ムービー録音」→「オン」を選択します。**

2 **撮影します。**

モードダイヤル位置による機能制限

モードダイヤル	ムービー録音	初期設定
P	ー	ー
A/S/M	ー	ー
🎥	○	オン

注 意

- カメラ本体で音声を再生することはできません。音声を再生するには付属のAVケーブルでカメラをテレビに接続してください（P. 141)。
- パソコンで動画や音声を再生する場合は、音声を再生する機能を持つパソコンであることと、Quick Time 4.0 以上が必要です。
- ムービー録音をオンに設定して撮影しているあいだ、ピントは固定されています。被写体との距離が大きく変わる場合は、撮影前にムービー録音をオフにします。

6

画像・画質・露出の調整

画質モードを選択する

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードをお選びください。設定可能なモードや記録サイズ、またカードへの記録可能枚数については次頁の表をご参照ください。数値は目安です。

○P ○A/S/M ○🎥

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「画質モード」の順に選択し、▷ を押します。🎥 モードでは、トップメニューから「画質モード」を選択します。**

2 **△▽を押して画質モードを選択し（以下の表参照）、▷ を押します。**

画質モード	特徴	画質	ファイルサイズ
TIFF	最高画質モードです。非圧縮データとして保存されるので、プリントやパソコンで画像を加工する際に最適です。また、目的に応じて記録サイズを変更できます。	きれい ↑	大きい ↑
SHQ	JPEG形式の高画質モードです。圧縮率が低いため、高画質を維持することができます。また、「プリント拡大」での記録サイズを選択すると、大きいサイズでプリントする際に有利です。		
HQ	標準レベルで圧縮された高画質モードです。SHQより圧縮率が高く、ファイルサイズが小さくなるので、より多くの画像を記録できます。また、SHQと同様に「プリント拡大」で記録サイズを変更することが可能です。		
SQ1 SQ2	SHQやHQより小さい記録サイズを選べるモードです。各記録サイズで「高画質（JPEGノイズを抑制）」または「標準（より多く撮影）」を選択できます。プリント用、ホームページ用など用途に合わせて、選んでください。	↓ 普通	↓ 小さい

3 △▽を押して、記録サイズを選択します（以下の表参照）。

- プリント拡大を選択した場合は▷を押して、記録サイズを選択します。
- 「ＳＱ１」「ＳＱ２」を選択している場合、記録サイズを選択後▷を押し、さらに△▽で「高画質」「標準」のいずれかを選択します。

静止画画質モード

カードの記録可能枚数は目安です。

画質モード	記録サイズ		圧縮	ファイル形式	カードの記録可能枚数（枚）（音声なし/音声付き） 16MB	32MB
TIFF	2272x1704		非圧縮	TIFF	1/–	2/–
	2048x1536				1/–	3/–
	1600x1200				2/–	5/–
	1280x960				4/–	8/–
	1024x768				6/–	13/–
	640x480				16/–	33/–
SHQ	2272x1704		低圧縮	JPEG	5/5	11/11
	プリント拡大（P. 113）	3200x2400			2/2	5/5
		2816x2112			3/3	7/7
HQ	2272x1704		標準		16/15	32/31
	プリント拡大（P. 113）	3200x2400			8/8	16/16
		2816x2112			10/10	21/21
SQ1	2048x1536	高画質	*		7/7	14/14
		標準			20/19	40/39
	1600x1200	高画質			11/11	23/22
		標準			32/30	64/60
	1280x960	高画質			18/17	36/34
		標準			49/45	99/90
SQ2	1024x768	高画質			27/26	55/52
		標準			76/66	153/132
	640x480	高画質			66/58	132/117
		標準			165/124	331/248

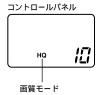
*高画質→低圧縮 / 標準→標準

ムービー画質モード

一度に連続して撮影できる時間（秒）

画質モード	記録サイズ	8MB 音声なし	8MB 音声付き	16MB以上 音声なし	16MB以上 音声付き
HQ	320x240 (15コマ/秒)	24	23	33	32
SQ	160x120 (15コマ/秒)	105	93	148	130

画質モード（つづき）

4 ㊀ **を押して選択を確定します。**
- 画質モード設定画面に戻ります。
- 設定された画質モードは、コントロールパネルに表示されます。

画質モードの初期設定

P、A/S/M、🎥：HQ

● **記録サイズ**

画像を記録する際の大きさ（横の画素数×縦の画素数）です。画像をプリントする時は、大きなサイズで記録しておくときれいにプリントされます。ただし、記録サイズが大きくなるほどファイルサイズ（データの量）も大きくなり、カードに保存できる枚数は少なくなります。

● **記録サイズとパソコンモニタ上での画像の大きさ**

撮影した画像をパソコンで見る際に表示される画像の大きさは、パソコンのモニタ設定によって異なります。例えば、640X480の記録サイズで撮影された画像は、パソコンのモニタ設定が640X480のとき画像を等倍で表示すると、モニタ全体に表示されます。モニタ設定がそれ以上(1024X768など)になると、モニタの一部にしか表示されません。

● **圧縮率**

TIFFモード以外の画質モードでは、画像を圧縮して保存します。圧縮率が高いほど画質は粗くなります。

● **ファイル形式**

このカメラでは、TIFF、またはJPEGのどちらかの形式で保存されます。TIFFモード以外はすべてJPEG形式で保存され、圧縮率も異なります。（TIFF＝高画質/ファイルサイズ大、　JPEG＝中・低画質/ファイルサイズ小）

注 意

●表中のカードの記録可能枚数はおおよその目安です。
●記録可能枚数は画質モード、カードの容量、またはプリント予約や音声記録の有無によっても変わります。

プリント拡大

プリント拡大（SHQ、HQモードのみで設定可能）を選択すると、総画素数の400万画素を600万画素相当(2816x2112)、800万画素相当(3200x2400) へと拡大することができ、A3用紙など大きなサイズでプリントする際に有効です。画素数を増やすほどきれいにプリントすることができますが、ファイルサイズは大きくなります。なお、 🎥 モードではプリント拡大の設定はありません。

注 意

●画質モードがSHQのプリント拡大の設定では、連写（AF連写）やオートブラケット撮影はできません。

ISO感度

ISO感度は数値が大きいほど感度が高く、より暗いところ（光量が少ないところ）での撮影が可能になりますが、感度が高くなるにつれて画像にはノイズが増えます。

P　A/S/M　🎥

トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ISO感度」の順に選択し、「オート」、「100」、「200」、「400」の中から目的に合わせて設定します。

オート　：被写体の条件に合わせて自動的に感度が変わります。
100/200/400　：通常100は、日中の撮影に最適でシャープな画像を得ることができます。感度が高くなるにつれて、同じ光量でもより速いシャッター速度が使えます。

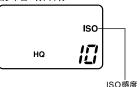
モードダイヤル位置による機能制限

モードダイヤル	ISO感度	初期設定
P	オート/100/200/400	オート
A/S/M	100/200/400	100
🎥	オート/100/200/400	オート

液晶モニタ

ISO感度
「オート」に設定されているときは表示されません。

コントロールパネル

ISO感度

注 意

- 感度を高く設定するほど画像にノイズが増えます。
- 感度は銀塩写真のフィルム感度を基準に設定していますが、数値は目安です。
- ISOがオートに設定されているとき、暗いところでフラッシュを使わずに撮影すると、シャッター速度が遅くなり手ぶれする可能性があるため自動的に感度が上がります。

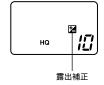
露出補正

十字ボタンを使って、露出を手動で微調整できます。 撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。1/3段刻みで±2.0の範囲で設定できます。

▷ ＋に補正する（明るくなる）

モードダイヤル位置による機能制限

モードダイヤル	露出補正	初期設定
P	○	0.0
A/S/M	○（Mでは不可）	0.0
🎥	○	0.0

コントロールパネル

ヒント

● **通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く写ってしまいますが、＋に補正することにより見たままの白を表現することができます。また、黒い被写体を撮影するときは、逆にーに補正すると効果的です。**

ホワイトバランス

被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているとき、夕日があたっているとき、電球のひかりがあたっているときでは、それぞれの白が違います。ホワイトバランスを調整することにより、このような光源による微妙な色の違いを見たままの色に表現することができます。

○P　○A/S/M　○🎥

トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「ホワイトバランス」を選択し、「オート」、「プリセット」、「ワンタッチ」の中から撮影状況に合わせて設定します。🎥 モードでは、トップメニューから「ホワイトバランス」を選択します。

オートホワイトバランス

光源によらず、全体の色のバランスを自動的に調整します。

6

画像・画質・露出の調整

プリセットホワイトバランス

撮影する光源に応じて、次の中からプリセットホワイトバランスを選択できます。

☼ ：晴天
☁ ：曇天
☼ ：電球
⊞ ：蛍光灯

また、実際の光源とは異なるプリセットホワイトバランスを選択することにより、様々な色調を楽しむこともできます。

プリセットホワイトバランス画面

ワンタッチホワイトバランス

この機能を使うと、プリセットホワイトバランスでは調整しきれない微妙な色合いを設定することができます。カメラを白いもの（白い紙など）に向けて、実際の撮影状況に適切なホワイトバランスをカメラに記憶させせます。

1 **「トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「ホワイトバランス」→「ワンタッチ」を選択します。**

●「ワンタッチホワイトバランス」画面が表示されます。

ワンタッチホワイトバランス画面

2 **カメラを白い紙に向けます。**

●紙は画面一杯になるように置き、影の部分ができないようにしてください。

3 **Ⓞ を押します。新しいホワイトバランスが設定されます。**

●ワンタッチホワイトバランスを中止するときは◁を押します。

4 **メニュー画面が消えるまで、繰り返しⓄを押します。**

コントロールパネル

ホワイトバランス「オート」に設定されているときは表示されません。

注 意

●通常はオートに設定してお使いください。
●ワンタッチホワイトバランスでは、紙に反射している光が明るすぎたり暗すぎたりする場合は、適切な設定ができません。
●特殊な光源下ではホワイトバランスの効果が発揮できない場合があります。
●ホワイトバランスを使って撮影した場合は、必ず撮影画像を再生して色の確認を行なってください。

WB補正

ホワイトバランスを微調整することができます。

○P ○A/S/M

トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「WB補正」を選択します。

画面上にWB補正バーが表示されます。現在のホワイトバランスの値に対し、△を押す度に青みがかかり、▽を押すたびに赤みがかかった画像になります。調整値を決定するには㊝を押します。

WB補正画面

WB補正バー

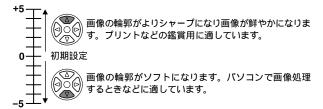
モードダイヤル位置による機能制限

モードダイヤル	WB補正	初期設定
P	○	±0
A/S/M	○	±0
🎥	ー	ー

シャープネス

画像の鮮鋭度を調節します。

トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「シャープネス」を選択します。

△▽を使って、プラス方向、マイナス方向それぞれ5段階の調節が可能です。

モードダイヤル位置による機能制限

モードダイヤル	シャープネス	初期設定
P	○	±0
A/S/M	○	±0
🎥	ー	ー

注 意

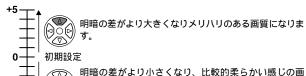
●プラス方向に調整しすぎると、画像にノイズが目立つ場合があります。

コントラスト

画像のコントラスト（明暗の差）を調節します。明暗差の小さい画像にメリハリを出したり、明暗差の大きい画像を柔らかい仕上がりにすることができます。

P　A/S/M

トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「コントラスト」を選択します。

△▽を使って、プラス方向、マイナス方向それぞれ5段階の調節が可能です。

モードダイヤル位置による機能制限

モードダイヤル	コントラスト	初期設定
P	○	±0
A/S/M	○	±0
🎥	ー	ー

ノイズリダクション

長時間露光時に画像に発生するノイズを軽減します。夜景の撮影など、遅いシャッター速度で撮影する際、画像にはノイズが目立つようになります。この機能を「オン」に設定すると、カメラが自動的にノイズを軽減でき、きれいな画像を得ることができます。ただし、撮影時間は通常の約2倍になります。
シャッター速度の設定が、1/2秒より遅いときに動作します。

○P ○A/S/M

トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ノイズリダクション」→「オン」の順に選択し、Ⓞ を押します。

注 意

- ノイズリダクションを「オン」に設定すると、撮影後にカメラがノイズを取り除く動作をするため、撮影時間が通常の約2倍になります。その間、次の撮影はできません。
- ノイズリダクションの設定がオンのときは、連写（AF連写）やオートブラケット撮影はできません。
- 撮影条件や被写体により、効果が出にくい場合があります。

7

再生

ここでは、撮影した静止画やムービーの再生方法や、モードダイヤルを▶（再生）の位置にセットしているときに使える機能などを説明します。

静止画の再生

1コマ再生

撮影した画像（1コマ）を再生 します。

1 **モードダイヤルを ▶ （再生）にします。**
- 液晶モニタが点灯し、撮影した画像が液晶モニタに表示されます。

2 **他の画像を再生するには、十字ボタンを使います。**
- ムービーには 🎥 マークがついています。→「ムービーの再生」参照（P. 126）

10コマ前の画像を表示

1コマ前の画像を表示

次の画像を表示

10コマ先の画像を表示

簡単再生

撮影モードのままで再生できます。撮影した画像をすぐに見たいときに便利です。また、簡単再生で表示された画像は、再生モードで表示された画像と同じように扱えます。

○P　○A/S/M　○🎥

1 **撮影モードのままで、 ▭ （液晶モニタボタン）を素早く2回続けて押します。**
- 液晶モニタが点灯し、撮影した画像が液晶モニタに表示されます。
- 1コマ再生と同様に、十字ボタンを使って他の画像を再生できます。

2 **撮影に戻るには、シャッターボタンを半押しします。**

自動再生

スライドをみるときのように、カードに記録されている静止画像を１枚ずつ自動的に再生させることができます。画像についている音声は、カメラでは聞くことができません。
ムービーコマは、最初のフレームのみが静止画と同じように再生されます。

1 **モードダイヤルを ▶ にして、静止画を表示させます。 OK を押してトップメニューを表示させます。**

再生トップメニュー（静止画）

2 **△ を押すと、自動再生が始まります。**

3 **OK を押すと、終了します。**

注 意

- カメラでの音声再生はできません。音声再生する際にはテレビに接続してください。画像に音声がついている場合は、音声の再生が終了してから次の画像を表示します。
- 長時間に渡って自動再生を行う場合には、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。電池をお使いの場合、30分経過すると自動的に自動再生が終了し、スリープモード（待機状態）に入ります。
- 自動再生は、 OK を押すまで繰り返されます。

ムービーの再生～ムービープレイ

撮影したムービーを再生したり、編集したりすることができます。

1 **モードダイヤルが ▶ にセットされていることを確認し、十字ボタンを使って 🎥 のついた画像を選択します。**

2 **Ⓞ を押してトップメニューを表示させます。**

再生トップメニュー（ムービー）

3 **△ を押すと、カードアクセスランプが点滅して、カード内のムービーのデータがカメラへ送られます（ダウンロード）。**

●「ムービープレイ」画面が表示されます。

ムービープレイ画面

ムービー再生：
ムービーを再生します→P. 127
インデックス作成：
ムービーを9分割して一つの画面に表示します→P. 128
ムービー編集：
ムービーを編集します→P. 130

4 **目的に合わせて「ムービープレイ」画面で項目を選択し、Ⓞ を押します。**

● これ以降の手順は上記ページをご覧ください。

注 意

●ムービーを再生するためのダウンロードにかかる時間は、ムービーの録画時間や画質モードによって異なります。

ムービー再生

ムービーを再生します。

1 **126ページの手順1～3を行います。**

2 **「ムービープレイ」画面から、△▽を押して「ムービー再生」を選択します。**

3 **Ⓞを押すと、再生が始まります。**
- 全画面の再生が終わると、最初のコマに戻ります。

4 **Ⓞを押します。**
- 「ムービー再生」画面が表示されます。

再生：再度、ムービーを再生します。
コマ送り：コマ送りをします。
中止：ムービー再生を中止します。

ムービー再生画面

5 **△▽を押して、項目を選択します。**

6 **Ⓞを押して選択した項目を実行します。**
- 「コマ送り」を選択したときは次の操作を行います。

■ **コマ送りの方法**

△ ：ムービーの最初を表示します。
▽ ：ムービーの最後を表示します。
▷ ：押すたびにコマが進みます（コマ送り）。押し続けるあいだ再生します。
◁ ：押すたびにコマが戻ります。押し続けるあいだ逆再生します。
Ⓞ ：「ムービー再生」画面を表示します。

7 再生編

インデックス作成

撮影したムービーの内容が一目でわかるように、ムービーを9分割して一つの画面に表示（インデックス作成）することができます。
インデックス作成された画像は、ムービー撮影時とは異なった画質モードで静止画として保存されますのでご注意ください。（保存時の画質モードについては以下の表を参照）

ムービー撮影時の画質モード	インデックス画像の画質モード
HQ	SQ （1024 x 768／高画質）
SQ	SQ （640 x 480／高画質）

1 **126ページの手順1～3を行います。**

2 **「ムービープレイ」画面から、△▽を押して「インデックス作成」を選択し、Ⓞ を押します。**

- 「先頭コマの選択」画面が表示されます。
- ダウンロード中は、カードアクセスランプが点滅します。
- カードの残量が少ないときは警告画面（P, 199）が表示されます。

先頭コマの選択画面

3 **◁▷を押しながら、選択枠内に先頭コマにしたいショットがくるまで再生し、確定したらⓄ を押します。**

- Ⓞ を押して先頭コマを確定すると、選択枠は撮影した動画の最終コマに移動します。

■ 十字ボタンの働き

△： ムービーの先頭コマへジャンプします。
▽： ムービーの後尾コマへジャンプします。
▷： コマが進みます。押し続けているあいだ、再生します。
◁： コマが戻ります。押し続けているあいだ、逆再生します。

4 **手順3にならって、インデックス画像の後尾コマを選択します。**

後尾コマの選択画面

5 **後尾コマが確定したら OK を押します。**

●「インデックス作成」画面が表示されます。

決定　：作成したインデックス画像がカードに記録されて、メニュー画面から抜けます。

再設定：再度インデックス作成を行うときに選択します。画面は、「先頭コマの選択」画面に戻ります。

中止　：インデックス作成を中止します。画面は「ムービープレイ」画面に戻ります。

インデックス作成画面

6 **△▽を押して項目を選択します。**

7 **OK を押して選択した項目を実行します。**

注 意

●書き込み禁止（プロテクト）がかかっていたり、カード残量がない場合の警告画面が表示されるカードをお使いのときは、インデックス作成はできません。

ムービー編集

撮影したムービーから不要な部分をカットして、編集することができます。

1 **126ページの手順1〜3を行います。**

2 **「ムービープレイ」画面から、△▽を押して「ムービー編集」を選択し、㊙を押します。**

- 「先頭コマの選択」画面が表示されます。
- ダウンロード中は、カードアクセスランプが点滅します。
- カードの残量が少ないときは警告画面（P. 199）が表示されます。

先頭コマの選択画面

3 **◁▷を押しながらムービーを再生し、先頭コマにしたいショットになったら、㊙を押します。**

- ㊙を押して先頭コマを確定すると、画面は撮影したムービーの最後に移動します。

■ 十字ボタンの働き

△： ムービーの先頭コマへジャンプします。
▽： ムービーの後尾コマへジャンプします。
▷： コマが進みます。押し続けているあいだ再生します。
◁： コマが戻ります。押し続けているあいだ逆再生します。

4 **手順3にならって、後尾コマを選択します。**

後尾コマの選択画面

5 後尾コマが確定したら㊊を押します。

●「ムービー編集」画面が表示されます。

決定　：「新規作成」または「上書き保存」を選択します。

＊「新規作成」は編集した画像を、別の名前で新しい画像として保存します。

＊「上書き保存」は編集した画像を、元の名前で保存します。元の画像は失われます。

再設定：再度ムービー編集を行うときに選択します。画面は「先頭コマの選択」画面に戻ります。

中止　：ムービー編集を中止します。画面は「ムービープレイ」画面に戻ります。

ムービー編集画面

6 △▽を押して項目を選択します。

7 ㊊を押して選択した項目を実行します。

注 意

●書き込み禁止（プロテクト）がかかっていたり、カード残量がない場合の警告画面が表示されるカードをお使いのときは、ムービー編集はできません。

●カード残量が不足している場合は「新規作成」はできません。

情報表示

再生時に液晶モニタに表示される撮影情報の量を、「オン」、「オフ」で切り替えることができます。「オフ」設定では、最小限の情報のみを表示します。実際に表示される内容についてはP. 25、26をご覧ください。

1 Ⓞ**を押してトップメニューを表示させます。**

再生トップメニュー
（静止画）

2 ◁**を押すと「情報表示」が「オン」になり、画面に撮影情報が表示されます。**

- 再度Ⓞを押してトップメニューを表示させ◁を押すと、「オフ」に切り替わります。

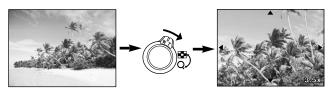
オフのとき

オンのとき

クローズアップ再生

液晶モニタに表示される画像を拡大することができます。ズームレバーをT側に回すごとに、画像が1.5倍、2倍、2.5倍、3倍、3.5倍、4倍に拡大されます。

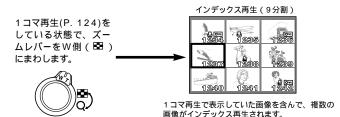
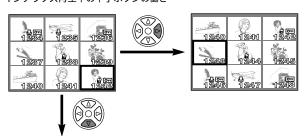
1 **十字ボタンで拡大したい画像を選択します。**
- 🎥 のついた画像は、拡大できません。

2 **ズームレバーをT側（🔍）に回します。**
- 拡大すると、画面に◀／▶／▲／▼が表示されます。表示したい方向の矢印と同じ十字ボタンを押すと、画像をずらして表示することができます。

- **元の大きさに戻したい。**
  → ズームレバーをW側にまわします。
- **別の画像を表示したい。**
  → ズームレバーをW側にまわして、現在表示されている画像を1倍に戻してから、十字ボタンを使って拡大したい画像を選びます。

インデックス再生

液晶モニタに複数の画像を一度に表示することができます。カードに記録されている画像の中から、見たい画像を素早く探したいときに便利です。また、表示される枚数を、4、9、16枚（分割）から選ぶこともできます。（次ページ参照）

1コマ再生(P. 124)をしている状態で、ズームレバーをW側（ ）にまわします。

1コマ再生で表示していた画像を含んで、複数の画像がインデックス再生されます。

■ インデックス再生中の十字ボタンの働き

◁ ： 1つ前のコマへ移動
▷ ： 1つ次のコマへ移動
△ ： 左上の画像の1つ前の画像までのインデックスを表示
▽ ：右下の画像の次の画像からのインデックスを表示

● **インデックス再生で画像を選んで、1コマ再生をしたい。**
→ 十字ボタンで画像を選択して、ズームレバーをT側にまわします。

インデックス表示

インデックス再生時に表示される分割数を変更できます。

1 **トップメニューから、「モードメニュー」→「設定」→「インデックス表示」を選択します。**

2 **「4」、「9」、「16」のいずれかを選択し、㊙を押します。**

4分割に設定した場合

録音

撮影済みの画像に音声メモを追加（アフレコ）することができます。また、録音済みの音声を新しく書き換えることもできます。録音できる時間は1画像につき約4秒間です。

1 **十字ボタンを使って、音声をつけたい静止画像を選択します。**
- 🎥 のついた画像には、録音できません。

2 **トップメニューから「モードメニュー」→「再生」→「録音」を選択します。**

3 **▷ ボタンを押すと「スタート」が表示されます。**

4 **カメラのマイクを録音したい対象へ向け、Ⓞ を押すと録音が開始されます。**
- 録音中を示すバーが表示されます。

注 意

- 録音の対象がカメラから1ｍ以上離れると、きれいに録音されません。
- 録音済みの画像に再度録音した場合は、前の音声が消えて新しい音声のみ残ります。
- 書き込み禁止（プロテクト）がかかっていたり、カード残量がない場合の警告画面が表示されるカードをお使いのときは、録音できません。
- カードの残り容量が少ない場合は、録音できないことがあります。
- 録音中にボタン操作をすると操作音が入ることがあります。
- 一度音声を記録したら、音声のみを消すことはできません。音声を入れずに、上記の手順をしてください。

プロテクト機能

画像を誤って消さないようにするために、その画像にプロテクト（消去禁止）をかけることができます。

1 **十字ボタンでプロテクトをかけたい画像を表示します。**

2 **O┳ボタンを押すと、その画像にプロテクトがかかります。**
- プロテクトを解除するには、再度O┳ボタンを押します。

画像にプロテクトがかかると表示されます。

注 意

- プロテクトされた画像は、全コマ消去しても消されることはありませんが、フォーマットするとすべて消去されます。
- ライトプロテクトシールの貼ってあるカードには、プロテクト操作はできません。
- テレビに接続して再生している時は、プロテクトはかけられません。

画像の消去

撮影した画像を消去することができます。
再生している１コマのみを消去する１コマ消去と、カード内の画像全てを消去する全コマ消去があります。

注 意

- カードにプロテクトシールが貼られているときは消去できません。
- 一度消した画像は、復旧することはできません。

１コマ消去

🗑 ボタンを押して、１コマ再生しているコマを消去します。他の画像も消去したいときには、１コマ消去を繰り返します。

1 十字ボタンで消去したい画像を選択します。

- 画像にプロテクト(P. 137)がかかっている場合は、解除してください。

2 🗑 ボタンを押します。

- 「１コマ消去」画面が表示されます。

１コマ消去画面

3 △ を押して、「消去」を選択します。

4 OK を押して、消去を実行します。

- 消去を中止するには、手順３で「中止」を選択し、OK を押すか、再度 🗑 ボタンを押します。

7 再生編

全コマ消去

カードに記録されている静止画、ムービーを全て消去します。ただし、プロテクト(P. 137) されている画像は消去できません。

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「カード」→「カードセットアップ」→「全コマ消去」を選択します。**

2 **Ⓞ を押します。**

- 「全コマ消去」画面が表示されます。

全コマ消去画面

3 **△を押して、「消去」を選択します。**

4 **Ⓞ を押して、全コマ消去を実行します。**

- 画面に処理中を示すバーが表示されます。
- 全コマ消去を中止するには、手順 3 で「中止」を選択し、Ⓞ を押します。

処理中画面

カードのフォーマット

カードをフォーマットします。フォーマットとは、カードを使用機器で書き込みできるように初期化することです。オリンパス標準カードの使用をおすすめしますが、パソコンなど他の機器でフォーマットされたカードや、当社カード以外の市販カードをお使いになる場合は、お使いになる前にあらかじめこのカメラでフォーマットしてください。なお、カードのフォーマットは撮影モードでも可能です。

P　A/S/M

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「カード」→「カードセットアップ」→「フォーマット」を選択します。**

2 **Ⓞを押します。**
- 「フォーマット」画面が表示されます。

フォーマット画面

フォーマット
フォーマット
中　止
選択　実行 OK

3 **△を押して、「フォーマット」を選択します。**

4 **Ⓞを押して、初期化を実行します。**
- 画面に処理中を示すバーが表示されます。
- フォーマットを中止するには、手順3で「中止」を選択し、Ⓞを押します。

処理中画面

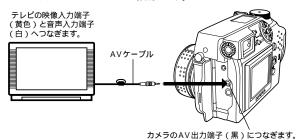
注 意

- 初期化すると、プロテクトをかけた画像を含む既存のデータは消滅します。使用済みカードをフォーマットするときは、大切なデータを消さないようにご注意ください。
- オリンパス製以外のカード、およびパソコンでフォーマットあるいは使用したカードは、書き込み時間が長くなることがあります。このようなときは、このカメラで再度フォーマットすることをおすすめします。
- カードにライトプロテクトシールが貼られている場合は、フォーマットできません。

テレビ再生

AVケーブル（付属）を使って撮影した画像や音声をテレビで再生することができます。

1 **カメラとテレビの電源が切れていることを確認します。**

2 **AVケーブルでカメラとテレビを接続します。**

3 **モードダイヤルを ▶ にして、テレビの電源を入れます。テレビ側で映像入力を選択します。**

●映像入力を選択する際は、お使いのテレビの取扱説明書をご参照ください。

4 **十字ボタンで表示したい画像を選択します。**

●テレビに選択した画像が表示されます。

● **テレビで再生する場合はACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。**

● **テレビで再生しているときのみ、画像を回転させて再生することができます。詳しくは次頁をご参照ください。**

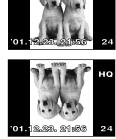
注 意

●テレビに接続した場合はカメラのモニタ表示が自動的に切れます。
●お使いのテレビによっては画像の表示位置が中央からずれる場合があります。
●お使いのテレビによっては画像の外側に黒い枠が表示されることがあります。

回転再生

テレビで再生する場合のみ、画像を回転して表示することができます。
カメラを縦に構えて撮影した場合の画像は、横向きに表示されます。このような場合は回転再生を使って画像を縦向きにすることができます。時計方向に90度、半時計方向に90度の回転が可能です。

1 **1コマ再生(P. 124)をして、縦位置で撮影したときの画像を表示します。**

2 **AEL/ボタンを押すたびに、画像は右図のように回転します。**

HQ
'01.12.23. 21:56 24
縦位置で撮影したときの通常の再生状態
AEL/
通常の再生状態から反時計方向へ回転
AEL/
通常の再生状態から時計方向へ回転
AEL/

注 意

- 再生する画像がムービーの場合は回転できません。
- 電源を切っても、画像が回転された状態は記憶されます。
- 画像が回転した状態から拡大再生ができます。ただし、拡大再生中は画像は回転しません。(P. 133)
- 次の画像は回転再生はできません：プロテクトのかかった画像・プロテクトシールを貼ったカードに保存されている画像・他のカメラで撮影した画像

CAMEDIA DIGITAL CAMERA

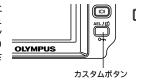
8

カメラの便利機能

この章では、このカメラでできるいろいろな便利機能について説明します。3章の「メニューのしくみ」と合わせてご覧ください。

カスタムボタン設定

カスタムボタンにお好みで使用頻度の高いメニュー機能を登録することができます。メニュー画面を呼び出さなくても、直接このボタンを押すだけでメニュー機能の操作が可能となります。お買い上げ時は「AEロック」に設定されています。

カスタムボタン

登録できるメニュー機能

機能	設定内容
AEロック(初期設定)(P. 100)	―
ドライブ(P. 94)	□（単写）・□（連写）・AF□（AF連写）・（セルフタイマーリモコン）・BKT
ISO感度(P. 114)	オート・100・200・400
A/S/Mモード(P. 68〜70)	A・S・M
フラッシュ選択(P. 185、186)	内蔵＋外部・外部
スローシンクロ(P. 89)	先幕効果・赤目先幕効果・後幕効果
ノイズリダクション(P. 121)	オフ・オン
デジタルズーム(P. 85)	オフ・オン
フルタイムAF(P. 75)	オフ・オン
AF方式(P. 74)	iESP・スポット
スチル録音(P. 106)	オフ・オン
ファンクション撮影(P. 103)	オフ・モノクロ・セピア・白板・黒板
画質モード(P. 110)	TIFF・SHQ・HQ・SQ1・SQ2
ホワイトバランス(P. 116)	オート・（晴天）・（曇天）・（電球）・（蛍光灯）
ワンタッチWB(P. 116)	―

カスタムボタンに機能を登録する

○P ○A/S/M

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「カスタムボタン設定」の順に選択します。▷ を押します。**
- 「カスタムボタン設定」画面が表示されます。

カスタムボタン設定画面

2 **△▽ で設定したい項目を選択し、OK を押して確定します。**

カスタムボタンを使う

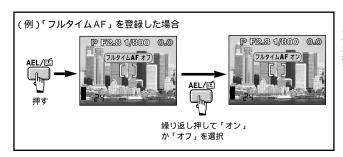
○P ○A/S/M

1 **AEL/ （カスタムボタン）を押します。**
- 登録したメニュー機能が表示されます。

2 **AEL/ ボタンを繰り返し押してお好みの設定にします。**

（例）「フルタイムAF」を登録した場合

8

カメラの便利機能

カスタムボタン設定（つづき）

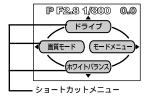
モードダイヤル位置による機能制限

モードダイヤル	カスタムボタン設定	初期設定
P	○	AEロック
A/S/M	○	AEロック
🎥	ー	ー

●モード別には設定できません。

● **カスタムボタンにISOを設定したが、AEロックを使いたい。**
→ カスタムボタンにAEロック以外のメニュー機能が登録されているときは、AEロックは使用できません。AEロックを使うには、前ページの「設定のしかた」にしたがって、カスタムボタンをAEロックに設定してください。

ショートカット設定

トップメニュー上の「モードメニュー」以外の３項目（ショートカットメニュー）を、以下の表の中から任意に選び、登録することができます。使用頻度の高い機能をトップメニューに登録しておけば、途中の操作なしにその機能の設定画面までジャンプできるので便利です。

登録できるメニュー機能

機能	設定内容
ドライブ(P. 94)	□（単写）・□（連写）・AF□（AF連写） （セルフタイマーリモコン）・ＢＫＴ
ISO感度(P.114)	オート・100・200・400
A/S/Mモード(P. 68～70)	A ・S・M
フラッシュ補正(P. 92)	＋2～±0～ー2
フラッシュ選択 (P. 185、186)	内蔵＋外部・外部
スローシンクロ(P. 89)	先幕効果・赤目先幕効果・後幕効果
ノイズリダクション(P. 121)	オフ・オン
マルチ測光(P. 98、99)	オフ・オン
デジタルズーム(P. 85)	オフ・オン
フルタイムAF(P. 75)	オフ・オン
AF方式(P. 74)	iESP・スポット
スチル録音(P. 106)	オフ・オン
パノラマ(P. 104)	ー
ファンクション撮影(P. 103)	オフ・モノクロ・セピア・白板・黒板
画質モード(P. 110)	TIFF・SHQ・HQ・SQ1・SQ2
ホワイトバランス(P. 116)	オート・プリセット・ワンタッチ
WB補正(P. 118)	BLUE～±0～RED
シャープネス(P. 119)	＋5～±0～ー5
コントラスト(P. 120)	＋5～±0～ー5

ショートカットメニューを登録する

P A/S/M

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ショートカット設定」の順に選択します。▷ を押します。**

- 「ショートカット設定」画面が表示されます。

ショートカット設定画面

2 **「A」を選択して ▷ を押すと、前ページの登録できるメニュー機能項目が表示されます。**

- 画面に表示される「A」「B」「C」は、順にトップメニューの上、左、下に当てはまる項目です。

トップメニュー上の項目の配置

3 **△▽で設定する機能を選択し、Ⓞ を押して確定します。**

- 「B」と「C」も同じ手順で設定します。

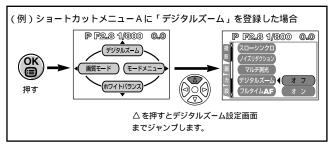
ショートカットメニューを使う

P A/S/M

1 **OK を押して、トップメニューを表示させます。**
- 登録したショートカットメニューがトップメニュー上に表示されます。

2 **各メニューのそばに表示される▲◀▼に従って、十字ボタンを押します。**
- 設定した機能の設定画面までジャンプします。

（例）ショートカットメニューAに「デジタルズーム」を登録した場合

△を押すとデジタルズーム設定画面までジャンプします。

モードダイヤル位置による機能制限

モードダイヤル	ショートカット設定	初期設定
P	○	A:ドライブ B:画質モード C:ホワイトバランス
A/S/M	○	
🎥	ー	ー

●モード別には設定できません。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーを使って撮影できます。三脚を使って記念写真を撮るときなどに便利です。また、別売のリモコンを使った撮影もできます。

○P ○A/S/M ○🎥

1 **カメラを三脚などでしっかり固定します。**

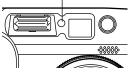
2 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ドライブ」→「 」の順に選択し、 を押します。**
（ムービーの場合は、「モードメニュー」→「撮影」→「セルフタイマー/リモコン」→「オン」の順に選択し、 を押します。）

- コントロールパネルに「 」が表示されます。

コントロールパネル

セルフタイマー/リモコン

3 **シャッターボタンを全押しして、セルフタイマー撮影を開始します。**

- カメラ前面のセルフタイマー/リモコンランプが約１０秒間点灯し、さらに約２秒間点滅した後シャッターが切れます。
- ムービーの場合、上記の約１２秒間が経過した後、撮影が開始されます。ムービー撮影を終えるには、再度シャッターボタンを押します。

セルフタイマー/リモコンランプ

- **作動中のセルフタイマーを止めるには、 を押します。セルフタイマー／リモコンランプが消灯します。**

注 意

- セルフタイマーモードは、設定クリア（P. １５１）がオフになっていても、撮影が終わると自動的に解除されます。
- セルフタイマーを使ってムービー撮影をした場合、連続撮影可能時間まで撮りきると撮影は自動的に終了します。
- P・A/S/Mモードでできるセルフタイマー撮影は、１コマ撮影のみです。連写はできません。

設定クリア

各機能の初期設定を変更した後も、その設定を保持するかどうか、以下の３つより選択できます。なお、この「設定クリア」が適応される項目については、P．153の表をご参照ください。

■ **オフ**
電源を切る直前の設定が保存されます。

■ **オン**
電源を切ると、設定が解除されて初期設定に戻ります。（ご購入時は「オン」に設定されいています。）

■ **カスタム**
お好みの設定を「カスタム設定」として登録しておくと、電源を入れるたびにその設定に戻ります。

P　A/S/M　動画　再生

1 トップメニューから、「モードメニュー」→「設定」→「設定クリア」の順に選択します。
- 設定クリア設定画面が表示されます。

設定クリア設定画面

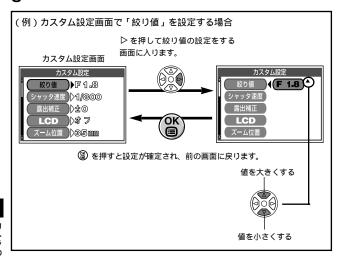
2 「オフ」、「オン」、「カスタム」のいずれかを選択し、OK を押します。
「カスタム」を選択し、さらにカスタム設定にすすむ場合は▷ を押します。
- 「カスタム設定」画面が表示されます。
  →手順3へ

次ページに続く

3 △▽を押して設定したい機能を選択し、▷ を押します。

4 △▽を押して設定を変更し、㊙ を押して設定を保存します。

5 他の項目を変更するには、手順3、4を繰り返します。

（例）カスタム設定画面で「絞り値」を設定する場合

カスタム設定項目とその初期設定

設定項目	初期設定
絞り値(P. 68)	F1.8
シャッタ速度(P. 69)	1/800
露出補正(P. 115)	±0
LCD*1	オフ
ズーム位置*2	35mm
フラッシュ(P. 90)	オート
スポット／マクロ(P. 97)	オフ
ドライブ(P. 94)	単写
AF/MF(P. 76)	AF
ISO感度(P. 114)	オート
A/S/Mモード (P. 68～70)	A
フラッシュ補正(P. 92)	±0
フラッシュ選択 (P. 185、186)	内蔵＋外部
スローシンクロ(P. 89)	先幕効果

設定項目	初期設定
ノイズリダクション (P. 121)	オフ
マルチ測光(P. 98、99)	オフ
デジタルズーム(P. 85)	オフ
フルタイムAF(P. 75)	オフ
AF方式(P. 74)	iESP
スチル録音(P. 106)	オフ
ムービー録音(P. 107)	オン
ファンクション撮影 (P. 103)	オフ
スチル画質(P. 111)	HQ
ムービー画質(P. 111)	HQ
ホワイトバランス(P. 116)	オート
WB補正(P. 118)	±0
シャープネス(P. 119)	±0
コントラスト(P. 120)	±0

*1 電源を入れたときの液晶モニタのオン／オフを設定します。
*2 電源を入れたときのズーム位置を35mm/55mm/80mm/105mmの中から選択できます。（表示されるズーム位置は35mmカメラの換算値です）

ビープ音

カメラのボタン操作音や警告音などの音量を、「オフ」、「小」、「大」の中から選択できます。ご購入時は「小」に設定されていますが、音を消したいときは「オフ」に設定してください。

P　A/S/M　動画　再生

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ビープ音」の順に選択します。**
- ビープ音設定画面が表示されます。

2 **「オフ」、「小」、「大」のいずれかを選択し、㊙ を押します。**

ビープ音設定画面

レックビュー

カードに記録中の画像を液晶モニタに表示するかどうかを「オン」、「オフ」で選択することができます。

■ オン

撮影した画像をカードに記録中、液晶モニタに表示します。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。また画像を表示中でも、シャッターボタンを半押しすればすぐに次の撮影に入れます。

■ オフ

カードに記録中の画像は表示しません。液晶モニタを点灯して撮影しているときは、カメラを向けている被写体を液晶モニタに表示し続けます。次の撮影のために被写体を追っているときなどに便利です。

P　A/S/M　動画

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「レックビュー」の順に選択し、「オン」か「オフ」かを選びます。

注 意

- レックビューをオンに設定して、液晶モニタを消して撮影しているときに、電池残量が少ない場合はレックビュー表示をしないことがあります。

ファイル名メモリー

記録される画像に、ファイル名とそのファイルが入るフォルダ名がカメラ内部で自動的に生成されます。ファイル名とフォルダ名はそれぞれファイルNo.(0001-9999)、フォルダNo.(100-999)を含み、次のように付けられます。

フォルダ名　ファイル名

¥DCIM¥***OLYMP¥Pmdd****.jpg

フォルダNo.（100～999）
月（1～C）
日（01～31）
ファイルNo.（0001～9999）

- ファイル名の「月」の表記は、1月～9月は1～9、10月はA、11月はB、12月はCとなります。

フォルダNo.とファイルNo.の付け方は「リセット」、「オート」の二通りがありますので、パソコンに画像を取り込む際に扱いやすい方をお選びください。

■ リセット

カードを入れ換えたときにフォルダNo.、ファイルNo.が両方ともリセットされます。フォルダNo.はNo.100に、ファイルNo.はNo.0001に戻ります。カード別に画像を管理するときに便利です。

■ オート

カードを入れ替えても、フォルダNo.ファイルNo.ともに前のカードから継続されます。複数のカードを管理するときでもファイル名が重複することがありません。全ての画像を通し番号で管理するのに便利です。

P　A/S/M　ムービー

1 トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ファイル名メモリー」の順に選択します。

- ファイル名メモリー設定画面が表示されます。

ファイル名メモリー設定画面

2 「リセット」、「オート」のいずれかを選択し、OK を押します。

ファイル名メモリー（つづき）

● **ファイルNo.が9999を超えたとき**
ファイルNo.は0001に戻りますが、フォルダNo.が変わります。（No.100→No.101など）

● **最大のフォルダNo.(999)、ファイルNo.(9999)に達したとき**
カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり、撮影ができません。

ピクセルマッピング

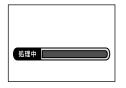
CCDと画像処理機能のチェックを同時に行います。
この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに調整する必要はありません。
調整は、年に一度を目安とし、最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分ほどの時間を空けた後に実行します。

P　A/S/M　動画

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ピクセルマッピング」の順に選択します。**

2 **▷を押します。**
●「スタート」と表示されます。

ピクセルマッピング（つづき）

3 **Ⓞ を押します。**
- ピクセルマッピング実行中は画面に動作時間を示すバーが表示されます。
- 終了すると、自動的にメニュー画面から抜けます。

注 意

●誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行なってください。

m/ft設定

マニュアルフォーカスモードの時に、液晶モニタに表示される長さの単位を、m（メートル単位）とft（フィート単位）から選択できます。(P. 76)
長い距離を示す時は、メートル/フィート表示に、短い距離を示す時はセンチ/インチ表示になります。

○P ○A/S/M ○

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「m/ft設定」を選択します。**
- m/ft設定画面が表示されます。

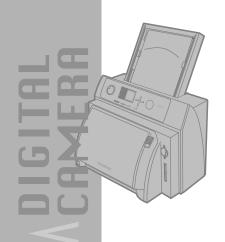
m/ft設定画面

2 **「m」、「ft」のいずれかを選択し、Ⓞ を押します。**

8

カメラの便利機能

DIGITAL CAMERA

CAMEDIA

9

プリント設定

カメラで撮影した画像を、お店やお手持ちのプリンタでプリントできるように、カードプリント予約をします。

プリント方法

このカメラで撮影し、カードに保存されている画像をプリントするには、以下の方法があります。

■ **プリント予約を設定（P. 162～168)してDPOF対応のお店でプリント、またはDPOF対応のプリンタでプリント**

まずカードプリント予約（P.162～168）をします。カードプリント予約とは、カードに保存した画像に、プリントする枚数や日付を印刷する指定を記憶させることです。

● **DPOFとは？**

Digital Print Order Formatの略称。デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録する形式です。

プリント予約したカードをお店に持っていくと、その予約内容のとおりにプリントができます。家庭でもDPOF対応のプリンタがあれば、可能になります。

■ **オリンパス製デジタルプリンタCAMEDIA P-400/P-200/P-330Nでプリント**

パソコンを使わずに、専用プリンタにカードを直接差し込んでプリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。

■ **画像をパソコンに転送して(P.169～182)、パソコンに接続しているプリンタでプリント**

パソコン上でJPEGの画像を表示するソフトウェア（インターネット閲覧ソフトやペイントソフトなど）があれば、パソコンに接続したプリンタでプリントすることができます。（CAMEDIA Masterを使ってもプリントできます。）

お使いのソフトウェアでプリントできることをあらかじめご確認ください。

詳しくはお使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

ヒント

撮影時の画質モードとプリントの関係

パソコンやプリンタの解像度には一般的に1インチあたりの点(ピクセル)の数が用いられ、dpi (dot per inch)と呼ばれています。同じ画像をプリントしても、プリント時のdpiの値を大きくすることでより鮮明に印刷することができますが、撮影された画像のピクセル数は変わらないため、実際に印刷されるサイズは小さくなります。その画像を拡大してプリントすることもできますが、画質は粗くなります。

プリントすることを前提として撮影するときや、大きいサイズでプリントしたいときは、撮影時の画質モード(P. 110)をできるだけ高いものに設定することをおすすめします。

重要！

DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。
ファイル番号は情報表示をオンにしたときに表示されます。（P. 25、26、132）

注 意

- 他のDPOF機器で設定されたDPOF予約内容を、このカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行なうと、以前に予約した内容は消去されます。
- 「この画像は再生できません」と表示される画像でも、プリント予約を設定できることがあります。その場合、1コマ再生だとプリント予約マーク（ 凸 ）は表示されません。複数の画像を表示しているときは（インデックス表示）、マーク（ 凸 ）が表示され、プリント予約を確認できます。
- オリンパス製デジタルプリンタP-300など、カメラに直接プリンタを接続してダイレクトプリントを行うプリンタでは、プリントできません。
- プリンタまたはラボにより、一部機能が制限されることがあります。
- P-330Nで印刷する場合、カード内に記録された999枚目以降の画像はプリントできません。
- プリント予約には時間がかかることがあります。
- カードにプロテクトシールが貼られているとプリント予約はできません。

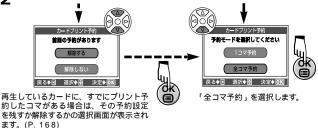
全コマ予約～カードの中の全画像をプリント予約する

1 モードダイヤルを ▶ にセットして、静止画を表示します。

● 🎥 のついた画像は、プリントできません。

2 凸 ボタンを押して、「カードプリント予約」画面を表示します。

再生しているカードに、すでにプリント予約したコマがある場合は、その予約設定を残すか解除するかの選択画面が表示されます。(P. 168)

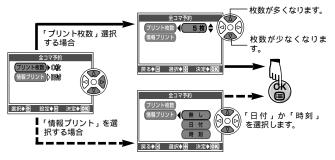
「全コマ予約」を選択します。

3 △▽ を押して「プリント枚数」か「情報プリント」(日付・時刻の設定)を選択します。どちらかを選択したら ▷ を押して設定を行ないます。

「プリント枚数」選択する場合

枚数が多くなります。

枚数が少なくなります。

「情報プリント」を選択する場合

「日付」か「時刻」を選択します。

4 設定を終えたら、 OK を押します。

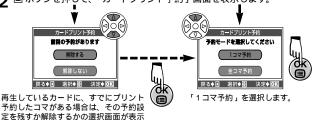
● 選択画面が消えて、画像が再生されます。

● 画面にプリント予約マークとプリント枚数が表示されます。

1コマ予約〜選択した画像のみをプリント予約する

1 **モードダイヤルを ▶ にセットして、静止画を表示します。**
- 🎥 のついた画像は、プリントできません。

2 **凸 ボタンを押して、「カードプリント予約」画面を表示します。**

再生しているカードに、すでにプリント予約したコマがある場合は、その予約設定を残すか解除するかの選択画面が表示されます。(P. 168)

「1コマ予約」を選択します。

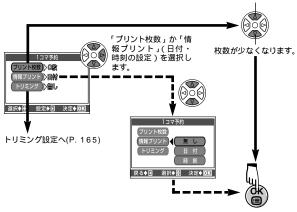
3 **プリント予約したいコマを、1コマ再生(P. 124)かインデックス再生(P. 134)をして選択します。**

画像を選択しているとき

次ページに続く

1コマ予約～選択した画像のみをプリント予約する（つづき）

4 プリント予約したいコマを選択したら、 ㊋ を押して決定します。

●「1コマ予約」画面が表示されます。

5 設定を終えたら、 ㊋ を押して選択画面に戻ります。

● 続けて他の画像をプリント予約するときは、手順3～5を繰り返します。

6 凸 ボタンを2回押します。

● 選択画面が消えて、画像が再生されます。

● プリント予約マーク・プリント枚数・日時が表示されていることを確認ください。

トリミング設定

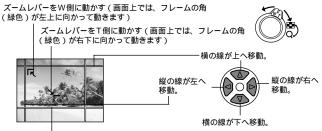
撮影した画像の一部を拡大して、プリントします。

1 「1コマ予約〜選択した画像のみをプリントする」の手順1〜4をします。手順4では「トリミング」を選択します。（P．163、164）

トリミングが設定されていないときは「設定」を、中止したいときは「中止」を選びます。

すでにトリミングが設定されている場合は、「トリミング」画面が表示されます。
「再設定」を選択し、㊙ を押します。

- 「決定」、「解除」を選択して ㊙ を押すと「1コマ予約」画面に戻ります。(P.164の手順4の画面)
  設定されているトリミングを保存→**決定**
  再度トリミングをしなおす→**再設定**
  トリミングを解除する→**解除**

2 トリミングのサイズを決める画面が表示されます。まず、プリントしたい画像の左上端の位置を決めます。以下の方法で、画面の縦横の線を動かします。

☞ 次ページに続く

3 **Ⓞ を押して左上端の位置を決定します。**

4 **右下端の位置を決める画面に変わります。縦横の線を動かす方法は、手順2と同様です。**
- 再度、左上端の位置を設定したい場合は、 ⎙ ボタンを押します。

5 **Ⓞ を押して右下端の位置を決定します。**
- 設定されたトリミングサイズが約1秒間表示されます。

6 **「トリミング」画面（手順1の画面）で、「決定」を選択します。**
- 「1コマ予約」画面に戻ります。

7 設定を終えるため、㉋ を2回押して選択画面に戻ります。

8 凸 ボタンを2回押します。

- 選択画面が消えて、画像が再生されます。

注 意

- プリントされる画像の大きさは、プリンタの設定によります。トリミングの大きさが小さいと、プリントするときの拡大率が大きくなるため、プリント画像は粗くなります。
- 詳細なクローズアッププリントを行なうためには、TIFF、SHQまたはHQモードでの撮影をおすすめします。
- トリミング画面の縦横比は、十字ボタンを使って変えられますが、ズームレバーを使うと4：3に固定されます。

プリント予約を解除する

カード内のすべての画像のプリント予約を解除します。

1 静止画を表示します。

2 凸 ボタンを押して、「カードプリント予約」画面を表示します。

● 再生しているカードに、すでにプリント予約したコマがない場合は、「カードプリント予約」画面は表示されません。

3 「解除する」を選択します。

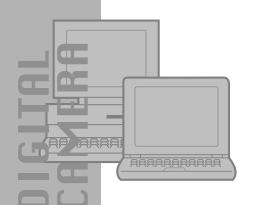
■ **選択した画像のみの予約の解除**

「解除しない」を選択して先へ進み、1 コマ予約のなかのプリント枚数の設定を 0 にします。

4 Ⓞ を押します。

5 凸 ボタンを 2 回押します。

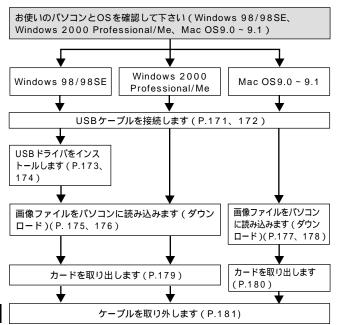
9

プリント設定

10

画像をパソコンに読み込む

カードに保存された画像はパソコンで読み込んでお楽しみいただくことができます。
この章ではパソコンに画像を取り込む方法について説明します。

カメラとパソコンをケーブルで接続する

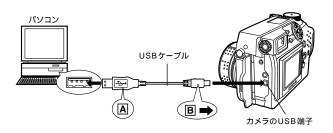
USBケーブルでパソコンに接続する場合、パソコンのOSによって手順が異なります。パソコンの動作環境については、お使いのパソコンメーカーにお問い合わせください。

＊ 以下のOS、仕様についてはUSB端子を装備していても正常な動作の保証はできません。

- Windows 95/NT 4.0
- Windows 95からアップグレードしたWindows 98
- Mac OS 8.6以下のバージョン
（ただし、出荷時にUSB端子、USB MASS Storage Support1.3.5を装備したMac OS 8.6は動作確認がされています）
- 拡張カードなどでUSB端子を増設した機種
- 自作パソコンは動作保証外です。

注 意

- カメラをパソコンに接続して使用するときは電池の残量が十分にあることをご確認ください。パソコンとの接続中（通信中）は、カメラだけで使用するときのようにスリープ状態（電池節約状態）になったり、自動的に電源が切れたりしません。また、パソコンとカメラの通信中に電池の残量がなくなると、カメラが途中で動作を停止するため、画像データ（ファイル）が壊れることがあります。パソコンとの通信時にはACアダプタのご使用をおすすめします。
- ACアダプタを接続する前にカメラの電源が切れていることを確認してください。
- ACアダプタを取り外す際には、パソコンとカメラの接続を外し、カメラの電源が切れていることを確認してください。
- 誤動作の原因になりますので、パソコンとの接続中はカメラの電源を切ったり、モードダイヤルを切り替えたりしないでください。
- USBハブを経由してカメラを接続すると、ハブとパソコン間の相性によって動作が不安定になることがあります。この場合は、ハブを使用しないでパソコンとカメラを直接接続してください。
- パソコンでムービーを再生するには、QuickTimeがインストールされている必要があります。

接続の手順

カメラとパソコンを接続するには付属のUSBケーブルを使います。

1 **カメラの電源を切って、パソコンに転送する画像の入ったカードを入れておきます。**

次ページに続く

2 **カメラのコネクタカバーを開けます。**

3 **USBケーブルの [A] と刻印されているプラグ部をパソコンのUSB端子に差し込みます。**

4 **USBケーブルの [B] と刻印されているプラグ部をカメラのUSB端子に差し込みます。**

5 **モードダイヤルを ▶ にセットします。**

- パソコンがカメラを新しい機器と認識して、USBドライバのインストールを開始します。（2回目以降の接続では、自動的にパソコンがカメラを認識するために下記のメッセージは表示されません。）

- **Windows 2000 Professional/Meをお使いの場合：**
  自動的にUSBドライバソフトがインストールされます。インストール終了のメッセージが表示されたら、「OK」をクリックして下さい。「マイコンピュータ」または「エクスプローラ」を開くと、カメラは「リムーバブルディスク」として表示されます。
- **Windows 98/98SEをお使いの場合：**
  カメラを認識してUSBドライバをインストールする画面が表示されますので、P.173の手順に従ってUSBドライバを付属のソフトウェアCDからインストールしてください。
- **Mac OS9.0～9.1をお使いの場合：**
  自動的にカメラを認識し、デスクトップ上に「名称未設定」アイコンが表示されます。

6 **「画像ファイルをパソコンに読み込む」（P.175）に従って、画像ファイルをパソコンにダウンロードします。**

Windows 98/98SE使用時のUSBドライバのインストール手順

1 P171の「接続の手順」にしたがって、カメラとパソコンを接続し、モードダイヤルを ▶ にセットします。

- パソコンの画面上に右の画面が表示され、カメラが新しい機器（ハードウェア）として認識されます。

2 「次へ」ボタンをクリックします。

3 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」が選択されていることを確認し、「次へ」ボタンをクリックします。

4 付属のソフトウェアCDをパソコンのCD-ROMドライブにセットし、CDが認識されるまで待ちます。

- CDのアプリケーションのメニュー画面が表示されたら、「終了」をクリックして閉じてください。

5 「フロッピーディスクドライブ」と「CD-ROMドライブ」のチェック（マーク）をクリックして外し、「検索場所の指定」をチェックした後、「参照」ボタンをクリックします。

☞ 次ページに続く

6 **フォルダの参照画面で、「CD-ROMドライブ」アイコンの左にある[＋]をクリックし、その後に表示される「USBフォルダ」の左にある[＋]をクリックします。USBフォルダの下に「Win98」フォルダが表示されます。「Win98」フォルダを選択してから「OK」ボタンをクリックします。**

7 **右の画面が表示されますので「次へ」ボタンをクリックします。続いて表示される画面でも「次へ」ボタンをクリックします。**

- ファイルのコピー画面が表示され、USBドライバがパソコンに読み込まれます。

8 **USBドライバの読み込み完了は終了メッセージの表示で確認できます。「画像ファイルをパソコンに読み込む」(P. 175)へ進んでください。**

画像ファイルをパソコンに読み込む（ダウンロード）

カメラとパソコンの接続が正しくできると、Windowsではカメラ（カード）をひとつのドライブ（通常はリムーバブルディスク）として認識します。Macintoshの場合は、デスクトップ上に新しいドライブ（名称未設定）として表示されます。
カード内の画像は、Windowsのエクスプローラのようなファイル管理ソフトでフロッピーディスクやMO同様、ファイルとして扱うことが可能です。（CAMEDIA Masterでもファイルの読み込みができます）

注意 CAMEDIA Masterをお使いの方へ（ご注意）

- CAMEDIA Masterをお使いの時は、バージョン2.5以上をお使いください。
- CAMEDIA Masterをお使いの時は、「マイカメラ」ではなく、「リムーバブルディスク」を選択して下さい。
  Mac OSの場合は「名称未設定」となります。

Windows の場合

1 接続の手順（P.171）に従ってカメラとパソコンを接続します。
- カメラに入っているカードはパソコン上では一つのフォルダとして認識されます。

2 ［マイ コンピュータ］アイコンをクリックします。

3 ［リムーバブルディスク］アイコンをダブルクリックします。
- ［DCIM］というフォルダのあるウィンドウが開きます。
  このアイコンが無い場合はカメラとパソコンがうまく接続できていません。接続の手順（P.171）に戻って接続しなおしてください。

次ページに続く

画像ファイルをパソコンに読み込む（ダウンロード）（つづき）

4 **DCIM フォルダをダブルクリックします。**

- ［100OLYMP］というフォルダのあるウィンドウが開きます。

5 **［100OLYMP］フォルダを開きます。**

- 新しいウィンドウが開きファイルが表示されます。

6 **エクスプローラを使って画像をパソコンにコピー（ダウンロード）します。**

- ファイルの移動やコピーなどの操作についてはパソコンの取扱説明書でよくお確かめください。
- パソコンでムービーを再生するには、QuickTimeがインストールされている必要があります。
- QuickTimeについては、アップルコンピュータ社のホームページで無償で配付されています。また、CAMEDIA Master2.5のCD-ROMにも収録されています。

Macintoshの場合

1 **接続の手順（P.171）に従ってカメラとパソコンを接続します。**

- デスクトップに［名称未設定］というアイコンが表示されます。このアイコンが無い場合はカメラとパソコンがうまく接続できていません。接続の手順（P.171）に戻って接続しなおしてください。

2 **［名称未設定］アイコンをダブルクリックします。**

- ［DCIM］というフォルダのあるウィンドウが開きます。

3 **［DCIM］フォルダをダブルクリックします。**

- ［100OLYMP］というフォルダのあるウィンドウが開きます。

4 **［100OLYMP］フォルダをダブルクリックします。**

- 新しいウィンドウが開きファイルが表示されます。

画像をパソコンに読み込む

10

次ページに続く

画像ファイルをパソコンに読み込む（ダウンロード）（つづき）

5 画像をパソコンにコピー（ダウンロード）します。

- ファイルの移動やコピーなどの操作についてはパソコンの取扱説明書でよくお確かめください。

ヒント

パソコンに読み込んだ画像は、CAMEDIA Masterや Paint Shop Pro、Photoshopなどのグラフィックソフトやインターネット閲覧ソフト（Netscape Communicator ／Microsoft Internet Explorer など）のJPEG を扱えるアプリケーションソフトウェアでも見ることができます。市販の画像処理ソフトの使用方法については、対応ソフトの取扱説明書を参照してください。また、画像処理の際には必ずパソコンに画像をダウンロードしてから行ってください。ソフトウェアによっては、ファイル（画像）がカメラのカードの中にある状態で画像処理（画像の回転など）を行うと、ファイルが壊れる可能性があります。

注 意

●以下の場合ではパソコンとの接続を一度中止する必要があります。

- 使用するカードを取り替える。
- モードを切り替える。
- カメラの電源を切る。

カードの取り出し手順

パソコンが誤動作する場合がありますので、カードを取り出す際は必ず以下の手順に従ってください。（誤動作を起こした場合、USBケーブルを接続しなおすかパソコンを再起動する必要があります。）

Windows の場合

1 **カメラのカードアクセスランプが消えていることを確認します。**

カードアクセスランプ

2 **「マイコンピュータ」上から「ドライブアイコン（リムーバブルディスク）」を選択し、右クリックをしてメニューを表示させます。**

3 **メニューから「取り出し」を選択して左クリックをします。**

4 **カメラのカードカバーを開けてカードを取り出します。**
→カードを取り出す（P. 35）

Macintosh の場合

1 **カメラのカードアクセスランプが消えていることを確認します。**

カードアクセスランプ

2 **デスクトップ上の「ドライブアイコン」を選択して「ゴミ箱」に捨てます。**
または、「特別」メニューから「取り出し」を選択します。

3 **カメラのカードカバーを開けてカードを取り出します。**
→カードを取り出す（P. 35）

USBケーブルの取り外し手順

USBケーブルを取り外す場合は、以下の手順に従ってください。
（カードの取り外し手順の操作をしてからおこなってください（P. 179）。カードアクセスランプが点滅していなければ、カメラにカードが入ったままでもUSBケーブルを外すことができます。）

Windows98/SE、MacOSの場合

カメラのカードアクセスランプが消えていることを確認したあと、USBケーブルを取り外します。

Windows 2000/Meの場合

次の**（A）（B）**どちらかの手順で取り外します。

（A）タスクバーの をクリックする

1. タスクバー（パソコン画面右下）に表示されている「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」（下図の円内の部分）のアイコンを左クリックします。
2. ドライブを停止するメッセージが表示されたら、メッセージを左クリックします。
3. 安全に取り外しできることを伝える「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリックします。
4. USBケーブルを取り外します。

（B）タスクバーの をダブルクリックする

1. タスクバー（パソコン画面右下）に表示されている「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」（下図の円内の部分）のアイコンをダブルクリックします。
2. ハードウェアの取り外し画面が表示されたら、ハードウェアデバイスの一覧からカメラを選択して「停止」ボタンをクリックします。
3. 安全に取り外しできることを伝える「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリックします。
4. USBケーブルを取り外します。

カードから直接画像を読み込む

カード用のアダプタを使うと、カメラとパソコンを接続しなくても、カードから直接画像を取り込むことができます。それぞれの機器の最新の情報については、当社カスタマーサポートセンターにお問い合わせください。

パソコンの環境	使用できる機器
3.5型（インチ）フロッピーディスクドライブを装備するパソコン	フロッピーディスクアダプタ
PCMCIAカードスロットを装備するパソコン	PCカードアダプタ
USB端子を装備するパソコン	スマートメディア／リーダ・ライタ

注意：

- パソコンの動作環境やカードの記憶容量等により、ご使用になれない場合があります。ご使用前にお確かめください。
- お取り扱いについては、各機器の取扱説明書をお読みください。

11

別売品を使う

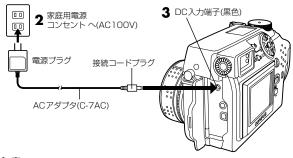
ACアダプタ

家庭用コンセントを使う場合は専用のACアダプタ(C-7AC)が必要となります。専用のACアダプタ以外はご使用にならないでください。また、電源は必ず100Vでご使用ください。

1 **カメラの電源が切れていることを確認します。**

2 **ACアダプタの電源プラグを、コンセントにしっかりと差し込みます。**

3 **カメラのコネクタカバーを開けて、DC入力端子に接続コードプラグを接続します。**

4 **使用後は必ずカメラの電源を切り、接続コードプラグをカメラから抜き、次に電源プラグを家庭用電源コンセントから抜きます。**

注 意

- 液晶モニタを点灯させて長時間撮影を続けていると、画像にノイズが発生する場合があります。
- 「安全にお使い頂くために」およびACアダプタの取扱説明書をよくお読みください。
- カードアクセスランプが点滅中にACアダプタの抜き差しは絶対に行なわないでください。
- カメラに電池が入っている場合もACアダプタから電力を供給しますが、カメラ内の電池が充電されることはありません。
- 電池でカメラを動作させているときでも、ACアダプタを抜き差しするときは、必ずカメラの電源を切った状態で行なってください。画像データを破壊したり、カメラの誤動作の原因になります。カメラが誤動作を起こしたら、カメラの電源を一度切って入れ直してください。

外部フラッシュ

専用外部フラッシュを使って撮影する

専用外部フラッシュFL-40で、多彩なフラッシュ撮影を行うことができます。専用外部フラッシュのみでの撮影だけでなく、内蔵フラッシュと併用しての撮影も可能です。
専用外部フラッシュを使うと、カメラのフラッシュモード、露出設定を自動的に検出するなど、内蔵フラッシュと同様に扱うことができます。
さらに内蔵フラッシュと併用すると、内蔵フラッシュでキャッチライト効果を得る等、高度なフラッシュ撮影が可能になります。
専用外部フラッシュFL-40とカメラを接続するには、専用のフラッシュブラケットFL-BK01（別売）と専用ブラケットケーブルFL-CB01（別売）が必要となります。

P　A/S/M

1 外部フラッシュFL-40を専用フラッシュブラケットに取り付け、カメラの三脚穴に固定させてから、専用ブラケットケーブルをフラッシュブラケットとカメラの外部フラッシュ端子に接続します。

- 専用外部フラッシュ・フラッシュブラケット・ブラケットケーブルそれぞれの取扱説明書もお読みください。
- 外部フラッシュ端子のキャップはネジ式ですので、接続の際はキャップを廻して外し、ご使用ください。

外部フラッシュ端子

2 トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「フラッシュ選択」の順に選択します。

- フラッシュ選択設定画面が表示されます。

フラッシュ選択設定画面

次ページに続く

3 **外部フラッシュのみを使う場合**
→「外部」を選択し、Ⓞ を押します。
内蔵フラッシュと併用して、外部フラッシュを使う場合
→「内蔵＋外部」を選択し、Ⓞ を押します。

4 **外部フラッシュの電源を入れます。**
- 外部フラッシュのモードは、「TTL-AUTO」になります。
- シャッターボタンを半押しすると、カメラと通信をして自動的にフラッシュに「TTL-AUTO」が表示されます。カメラの液晶モニタが点灯しているときは、通信を続けているので、常に「TTL-AUTO」と表示されます。

5 **ϟ（フラッシュモード）ボタンでフラッシュモードを選択します。****（P. 90）**

フラッシュモードボタン

注 意

- 近距離撮影時は露出オーバー（明るすぎ）になることがありますので、その際は内蔵フラッシュのみで撮影してください。
- 内蔵フラッシュとFL-40を両方発光させる場合は、内蔵フラッシュは補助光源として発光しますので、FL-40の光量が不足する場合は露出が小さくなります。

市販の外部フラッシュを使って撮影する

専用フラッシュブラケットFL-BK01（別売）と専用ブラケットケーブルFL-CB01（別売）を使って、市販の外部フラッシュも使用できます。（モードダイヤルがA/S/M設定時のみ）
使用できる市販の外部フラッシュについては次頁をお読みください。

A/S/M

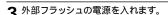
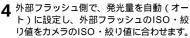
外部フラッシュ端子

1 **外部フラッシュを専用フラッシュブラケットに取り付け、カメラの三脚穴に固定させてから、専用ブラケットケーブルをカメラの外部フラッシュ端子に接続します。**

2 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「A/S/M モード」→「M」の順に選択し、Ⓞ を押します。シャッター速度と絞り値を設定します。(P. 60)**

- シャッター速度を遅く設定した場合、画像がぶれて撮影されますのでご注意ください。またフラッシュの効果を出すため、シャッター速度は1/200～1/300 までに設定されることをおすすめします。

3 **外部フラッシュの電源を入れます。**

4 **外部フラッシュ側で、発光量を自動（オート）に設定し、外部フラッシュのISO・絞り値をカメラのISO・絞り値に合わせます。**

- 外部フラッシュ側のモードの選択方法は、各フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

注 意

- カメラのフラッシュモードは、市販の外部フラッシュには適用されません。外部フラッシュは、カメラのフラッシュモードが発光禁止でも発光します。
- お使いになる外部フラッシュがカメラに同調するか、あらかじめご確認の上ご使用下さい。

使用できる市販外部フラッシュについて

市販の外部フラッシュをお使いになる前に、下記の事項を必ずご確認ください。

（1）市販のフラッシュには、シンクロ端子が高圧タイプのものがあります。このようなフラッシュを使用した場合、正常に機能しない場合があります。お使いのフラッシュのシンクロ端子の仕様については、フラッシュのメーカーにお問い合わせ下さい。

（2）市販のフラッシュには、シンクロ端子の極性が逆の機種があり、この場合接続しても発光しません。フラッシュのメーカーへご相談下さい。

（3）外部フラッシュ使用時の露出は、外部フラッシュ側で調節する必要があります。外部フラッシュをオートモードでご使用になる場合は、カメラで設定されているF値とISO感度に合わせることのできる製品をお使い下さい。

（4）外部フラッシュのオートF値やISO感度をカメラと同条件に設定しても、撮影条件によっては適正露出にならない場合があります。このような場合は外部フラッシュ側のオートF値かISO値をシフトするか、マニュアルモードで距離を計算してご使用ください。但し、オートF値、ISO値のシフトは1段刻みが一般的でそれ以下の露出補正は出来ません。（カメラ側の露出補正は外部フラッシュ撮影においては無効となります。）

（5）照射角度は35mmフィルム換算で、35mmレンズ以上カバーする製品をご使用ください。但し、ワイド側の近距離撮影においては、画面下がけられる場合があります。フラッシュの配光を広げるワイドアダプタが付属されているものが理想的です。

（6）フル発光時の閃光時間が1/200秒以下の製品をご使用ください。
リングフラッシュ等閃光時間が長いものは、光の一部が露出に寄与しなくなる場合があります。

（7）**FL-40以外の通信機能付きフラッシュ、およびその付属品をお使いになると正常に機能しないだけでなく、故障の原因となる事がありますのでご使用にならないでください。**

リモコン撮影

リモコンを使って撮影ができます。記念写真を撮るときなどに便利です。

P　A/S/M　ムービー

1 **カメラを三脚などでしっかり固定させます。**

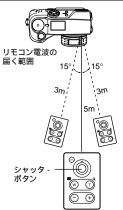
2 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ドライブ」→「 」の順に選択し、 を押します。（ムービーの場合は、「モードメニュー」→「撮影」→「セルフタイマー/リモコン」→「オン」の順に選択し、 を押します。）**

- コントロールパネルに「 」が表示されます。

ドライブ設定画面

コントロールパネル

3 **リモコンをカメラのリモコン受信窓に向け、リモコンのWまたはTボタンを押します。**

- カメラのズーム操作ができます。操作中は、セルフタイマー／リモコンランプが点滅します。

次ページに続く

4 リモコンのシャッターボタンを押します。

- カメラのセルフタイマー/リモコンランプが点滅し、約３秒後にシャッターが切れます。

ヒント

- **リモコンのシャッターボタンを押してもセルフタイマー/リモコンランプが点滅しない。**
  → カメラから離れすぎているため電波が届いていません。カメラに近づいて再度リモコンのシャッターボタンを押してください。
  → 電波が混信しています。リモコンの取扱説明書に従って、チャンネルを変えてください。
- **リモコンモードを解除したい。**
  → リモコンモードは撮影後も自動的には解除されません。P．189の手順２に従って、静止画の場合はドライブモードを「 」以外に、ムービーの場合は「オフ」に設定してください。

注 意

- リモコン受信窓に強い光があたると、リモコン電波の届く距離が短くなったり、撮影ができなくなることがあります。
- P・A/S/M モードでできるリモコン撮影は、１コマ撮影のみです。連写はできません。
- リモコンを使っての再生方法については、リモコンの取扱説明書をお読みください。

12

その他

カメラ操作のトラブルについて説明している「修理に出す前にお確かめください」や、「エラーコード表示一覧」など、知っておくと役立つ情報を載せています。

修理に出す前にお確かめください

原因	こうしましょう	参照ページ
カメラが動かない。		
①電源が切れている。	❶モードダイヤルをOFF以外にして、電源を入れてください。	P．36
②電池の向きが正しくない。	❷電池を正しく入れ直してください。	P．31
③電池の残量がない。	❸新しい電池を入れてください。	P．31
④寒さで電池の性能が一時的に低下した。	❹電池をポケットにいれるなどして温めてから使用してください。	P．13
⑤パソコンに接続している。	❺パソコンとの通信時は、カメラは動作しません。	P．171
⑥カメラがスリープモードになっています。	❻シャッターボタンやズームレバーを操作してください。	P．36
シャッターボタンを押しても撮影ができない。		
①モードダイヤルが、 ▶ にセットされている。	❶モードダイヤルを ▶ 以外にセットしてください。	P．66
②ピントと露出が合っていない。	❷シャッターボタンから指をはなし、ピント合わせをもう一度してください。緑ランプの点滅が終わったら、ピントが合っています。	P．67
③メモリゲージがすべて点灯している。	❸メモリーゲージの一番上が消灯するまで、お待ちください。	P．82
④フラッシュの充電が完了していない。	❹一度シャッターボタンから指を離し、オレンジランプの点滅が終わってから、撮影してください。	P．90
⑤ 🎥（ムービーモード）で撮影後、カードアクセスランプが点滅している。	❺撮影画像をカードに記録中です。カードアクセスランプが消えてから、撮影してください。	P．84

原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを押しても撮影ができない。		
⑥カードに問題がある。	❻エラーコード表示一覧でご確認ください。	P．199
⑦カードの容量がいっぱいになった。	❼カードを交換する、不要な画像を消去するなどの操作を行ってください。	P．35、138、139
⑧撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった。	❽新しい電池と交換してください。	P．31
⑨コントロールパネルや液晶モニタの表示が消えた。または、電池残量警告マークのみが点滅している。	❾電池を交換してください。（カード記録中の場合、完了するまでお待ちください。）	P．31
⑩カードにライトプロテクトシールが貼られている、またはカメラにカードが入っていない。	❿新しいカードを入れてください。	P．35
画像データに記録される日付が正しくない。		
①日付が設定されていない。	❶日付設定をしてください。（お買い上げ時には日付の設定がされていないので、記録されません。）	P．38
②カメラから電池が抜かれ約1時間経過し、日付設定が解除された。	❷再度、日付設定をしてください。	P．38
フラッシュが発光しない。		
①フラッシュモードが発光禁止になっている。	❶ ϟ ボタンを押して、フラッシュモードを発光禁止以外にしてください。	P．87～89
②明るい被写体である。	❷フラッシュを強制的に発光させたい場合は、強制発光モードにしてください。	P．87
③連写モードが設定されている。	❸メニューでドライブを単写に設定します。	P．94

原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュが発光しない。		
④🎥（ムービー）モードで撮影している。 ⑤パノラマ撮影をしている。 ⑥ファンクション撮影が白板・黒板になっている。	❹モードダイヤルを🎥以外にしてください。 ❺メニューで、パノラマをオフにしてください。 ❻メニューで、ファンクション撮影をオフにしてください。	P.66 P.104 P.103
液晶モニタ上で再生ができない。		
①撮影モードになっている。 ②カードに画像が記録されていない。 ③カードに問題がある。 ④テレビに接続している。	❶モードダイヤルを ▶ にセットしてください。 ❷液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。撮影してから再生してください。 ❸エラーコード表示一覧でご確認ください。 ❹テレビに接続しているときは、液晶モニタは点灯しません。	P.124 P.44、45、200 P.199 P.141
ファインダーが見にくい。		
①視度調節が正しくない。	❶見やすいように調整してください。	P.41
液晶モニタが見にくい。		
①液晶モニタの明るさが適切でない。 ②太陽光の下である。	❶見やすいように調整してください。 ❷太陽の光を手などでさえぎってください。	P.82
画像の回転、プロテクト、1コマ消去、全コマ消去 プリント予約、フォーマットができない。		
①カードにライトプロテクトシールが貼られている。	❶シールを剥がしてからご使用ください。（シールは再使用しないでください。）	P.34

原因	こうしましょう	参照ページ
パソコンと接続して、画像の転送ができない。		
①ケーブルが正しく接続されていない。	❶正しく接続されていることを確認してください。	P. 171
②カメラの電源が切れています。	❷モードダイヤルを ▶ にします。	P. 172
③電池がない。	❸新しい電池を入れるか、ACアダプタ(別売)をお使いください。	P. 31、184
④USBドライバが正しくインストールされていない。	❹USBドライバを再度インストールし、パソコンがカメラを認識しているかを確認してください。	P. 171～174
フラッシュを使って人物撮影したら、目が赤く写ってしまった。		
①フラッシュモードがオート発光になっている。	❶赤目軽減発光モードを使い、発生頻度を大幅に軽減できます。 （フラッシュを用いた人物撮影では、目が赤く写ることがあります。これは網膜がフラッシュの光を反射するために、起こる現象で完全に防ぐことはできません。発生頻度や出方も個人差が大きく、また周囲の明暗等の撮影条件によっても異なります。）	P. 87
ピントの合っていない写真ができた。		
①シャッターボタンを押すときにカメラぶれが起こってしまった。	❶カメラが動かないようにカメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押してください。	P. 41、71
②ピントを合わせたいものが、AFターゲットマークからはずれてしまった。	❷ピントを合わせたいものを画面中央に持ってくるか、フォーカスロック撮影を行ってください。	P. 73
③レンズが汚れていた。	❸レンズをきれいにしてください。	P. 198

原因	こうしましょう	参照ページ
ピントの合っていない写真ができた。		
④被写体までの距離が近すぎた。	❹マクロモードに設定してください。（ズームによって、被写体に近付ける距離は異なります。）	P. 102
⑤セルフタイマー撮影で、カメラの前に立ってシャッターボタンを押した。	❺カメラの前に立たず、ファインダをのぞきながらシャッターボタンを押してください。	P. 150
⑥マニュアルフォーカスで被写体までの距離を確認せずに撮影してしまった。	❻マニュアルフォーカスの合焦距離範囲で撮影してください。	P. 76
撮影した画像が明るすぎる。		
①フラッシュモードが強制発光になっていた。	❶強制発光以外のフラッシュモードを選んでください。	P.87～89
②被写体が明るすぎた。	❷露出補正をするか、カメラの向きを変えるなどの工夫をしてください。	P. 100、115
撮影した画像が暗い。		
①フラッシュを指などで覆ってしまった。	❶カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気を付けてください。	P.41
②撮りたいものがフラッシュ撮影範囲よりも遠くにあった。	❷フラッシュ撮影可能範囲内で撮影してください。または外部フラッシュをご使用ください。	P.90、185
③フラッシュモードが発光禁止になっていた。	❸ ⚡ ボタンを押して、フラッシュモードを発光禁止以外にしてください。	P.87～89
④逆光状態で小さい被写体を撮影した。	❹フラッシュモードを強制発光にセットするか、スポット測光モードにして撮影してください。	P. 87、97

原因	こうしましょう	参照ページ
撮影した画像が暗い。		
⑤連写モードで撮影した。	❺連写モードでは、シャッタースピードの最長秒時が短くなるので、暗い場所では通常よりも暗く写ります。	P．94
室内で写した写真の色がおかしい。		
①照明の色が影響した。	❶フラッシュモードを強制発光にセットして撮影してください。	P．87
②被写体に白い部分がなかった。	❷画角に白い被写体を入れて撮影するか、照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P．116～118
③ホワイトバランスの設定を間違えた。	❸照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P．116～118
画像の一部が欠けてしまった。		
①レンズに指やストラップがかかってしまった。	❶カメラを正しく構え、レンズに指やストラップをかけないように気を付けてください。	P．41

カメラのお手入れと保管

使用後のカメラの取り扱い

保管の際は、必ずカメラの電源を切り、レンズキャップを取り付けてください。防虫剤の使用はカメラを傷める原因となります。

カメラのお手入れ

1 **カメラの電源を切ります。(P. 36)**

2 **電池を取り出します(P. 31)。(ACアダプタをお使いの場合は、まず接続コードプラグをカメラから抜き、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。)**

3 **カメラの外側...** 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布をひたして、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水で浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタとビューファインダ... 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ... レンズブロワー（市販）でほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

カード... 乾いた柔らかい布で拭きます。

注 意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- お手入れをする前に、必ず電池やACアダプタをカメラから取り外してください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。

エラーコード表示一覧

このカメラでは各種の警告をエラーコードで表示します。エラー表示は点滅します。

コントロールパネル	液晶モニタ	原因	こうしましょう
[!] - - -	[!] カードを認識できません	カードが入っていません、または認識できません。	正しくカードを入れるか、別のカードを入れてください。
[!] 0	[!] 撮影可能枚数が0です	撮影可能枚数が0のため撮影できません。	カードを交換するか、不要なコマを消去してください。
[!] -P-	[!] 書き込み禁止になっています	カードが書込み禁止になっています。	撮影をする場合は、プロテクトシールをはがしてください。
[!] -E-	[!] このカードは使用できません	このカードで撮影、再生、消去をすることができません。	カードが汚れている場合は、クリーニングペーパーで拭いてから再度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときは、このカードは使用できません。
表示なし	[!] この画像は再生できません	記録されている画像がこのカメラでは再生することができません。	パソコンなどの画像ソフトで再生して下さい。それも出来ない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。

エラーコード表示一覧（つづき）

コントロールパネル	液晶モニタ	原因	こうしましょう
-F-	カードセットアップ 電源オフ フォーマット 選択 実行 OK	カードがフォーマットされていません。	カードをフォーマットしてください。
000	画像が記録されていません	記録画像がないため、画像が再生できません。	撮影画像の入ったカードを入れてください。
	カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約データや音声を含む新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要なコマを消去してください。
-O-	カードカバーが開いています	カードカバーが開いています。	カードカバーを閉めてください。

アフターサービス

● 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上大切に保管してください。

● 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または裏表紙の当社サービスステーションにご相談ください。使用説明書等にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満一ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。

● 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。また運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

● 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後 5 年間を目安に当社では有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店また、お近くの当社サービスステーションにお問い合わせください。

● 本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。
本製品は日本国内専用のため、海外での修理受け付けはできません。万一、外国で故障・不具合が生じた場合は、持ち帰って日本国内の当社サービスステーションまでご依頼ください。

● 本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等)については補償しかねます。

仕様

形式	デジタルカメラ(記録・再生型)
記録方式 　静止画 　静止画音声 　ムービー	 デジタル記録、JPEG（DCF準拠)、TIFF非圧縮、DPOF対応 Waveフォーマット準拠 QuickTime Motion JPEG に準拠
記録媒体	3V（3.3V）スマートメディア、4MB～128MB（2MBは使えません）
記録コマ数 （16MBカード使用時）	音声記録なしのとき 1枚(TIFF: 2272 x 1704) 約5枚(SHQ: 2272 x 1704) 約16枚(HQ: 2272 x 1704) 約49枚(SQ1: 1280 x 960標準) 約165枚(SQ2: 640 x 480標準)
撮像素子	1/1.8型(インチ)CCD固体撮像素子 413万画素(総画素数)
記録画素数	2272 x 1704ピクセル(TIFF/SHQ/HQ) 2048 x 1536ピクセル(TIFF/SQ1) 1600 x 1200ピクセル(TIFF/SQ1) 1280 x 960ピクセル(TIFF/SQ1) 1024 x 768ピクセル(TIFF/SQ2) 640 x 480ピクセル(TIFF/SQ2) 3200 x 2400ピクセル(SHQ/HQ) 2816 x 2112ピクセル(SHQ/HQ)
レンズ	オリンパスレンズ：7.1～21.3mm、F1.8～F2.6、7群10枚(35mmフィルム換算35～105mm相当)
測光方式	撮像素子によるデジタルESP測光およびスポット測光
絞り	W：F1.8～F10.0 T ：F2.6～F10.0
シャッター 　静止画 　ムービー	メカニカルシャッター併用 4～1/800秒（Mモード：16～1/800秒） （P/Aモードで、ノイズリダクションオフのとき：1～1/800秒） 1/30 ～ 1/10000秒
ファインダ	光学実像式ファインダ

液晶モニタ	1.8型(インチ)TFTカラー液晶(低温ポリシリコン)、 約114000画素
フラッシュ充電時間	約6秒(常温時、新品電池使用)
オートフォーカス	TTL方式AF、スポットAF、コントラスト検出方式／ 焦点調節範囲：0.2m〜∞
コネクタ	DC入力端子・A／V出力端子 (NTSC方式)・ USB接続端子（USB1.0準拠）外部フラッシュ端子
自動カレンダー機能	2031年まで自動修正
使用環境 　温度 　湿度	 0〜40℃(動作時)／−20〜60℃(保存時) 30〜90%(動作時)／10〜90%(保存時)
電源	電池はCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック2個、あるいは単3ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池4本を使用。 マンガン電池は使用できません。 AC アダプタ（別売）
大きさ	幅109.5mm 高さ76.4mm（突起部除く） 厚さ69.6mm
質量	320g(電池／カード別)

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

画素数
画像を形成する最小単位の点を指す。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

画像サイズ
画像を構成する点（ピクセル）の数で表した画像の大きさのこと。例えば、640 x 480で撮影した画像は、パソコンのモニタの設定が640 x 480のときではモニタ全体に表示されますが、1024 x768ではモニタの一部分にだけ表示されます。

銀塩写真
ハロゲン化銀を使った、従来からあるフィルムを用いた写真のことをいいます。

けられ
撮影画面内に邪魔なものが入り、被写体が完全に写らないとき、またファインダで覗いたときに、撮影レンズの鏡胴で視野の一部が見えないことも、けられといいます。撮影レンズに不適切なフードを使った場合など、視野の四隅が暗くなることもいいます。

コントラスト検出方式
被写体までの距離を測るのに、使用している方法。被写体のコントラストの大小を検出することで、ピントがあったかどうかを検出します。

絞り
レンズをとおして入ってくる光量を調節する機構。値が小さいほど光が多く入り、値が大きいほど入る光が少なくなります。そのレンズで使える最小の絞り値にすることを、開放するといい、絞り値を大きくするのを絞り込むといいます。

シンクロ端子
外部フラッシュとカメラとの接続のための端子。

バックライト
液晶モニタを照らすための光源。

フラッシュブラケット
フラッシュとカメラを連結させる器具。

リングフラッシュ
フラッシュの発光体であるクセノン管を、ちょうど蛍光灯のサークラインのように、リング状にしたフラッシュ。

露出
画像が写るために得る光の量。シャッター速度で時間、絞りでレンズを通して入ってくる光の量を、調節して露出を決めます。

アルファベット順

Aモード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(aperture priority mode)
絞り優先AEモード。絞り値は自分で決め、カメラが絞り値にしたがってシャッタースピードを変化させ、適正な露出で撮影するモード。

AE・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(automatic exposure)
自動露出。カメラに内蔵された露出計で自動的に決める方式。このカメラには、絞りとシャッタースピードをカメラに任せるPモード、絞り値を決めてシャッタースピードをカメラに任せるAモード、シャッタースピードを決めて絞り値をカメラに任せるSモードの3種類のAEがあります。Mモードでは、絞り値とシャッタースピードの両方を決める必要があります。

CCD・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(charge coupled device)
レンズを通して入ってきた光りを受けて、電気信号に変換する素子。このカメラでは、413万個の点で受けてRGBの信号に変換して一つの画像を作り出します。

DCF・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(design rule for camera file system)
電子情報技術産業協会(JEITA)で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(digital print order format)
デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。撮影したい画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応のプリントアウトサービスや、家庭でのプリントアウトを自動で行うことができます。

デジタルESP測光・・・・・・・・・・・
(electro selective pattern)
CCD出力を分割測光によって、周辺と中心部を個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。

EV・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(exposure value)
露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段早くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

ISO ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
国際標準化機構(ISO)の規格で決められた、フィルム感度の表示法。「ISO 100」と表記します。数値が大きくなるほど、光に対する感度が強くなり、少ない光でも感光します。

**JPEG ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(joint photographic experts group)**
カラー静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、画質をSHQ/HQ/SQに設定すると、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見れます。

**Mモード ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(manual mode)**
シャッタースピードと絞り値を、自分で設定して撮影するモード。

**Pモード ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(program mode)**
プログラムAEモード。カメラが自動的に、適正な絞り値とシャッタースピードを設定して撮影するモード。

**Sモード ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(shutter speed priority mode)**
シャッタースピード優先AEモード。シャッタースピードを自分で決め、カメラがシャッタースピードにしたがって絞り値を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

**TIFF ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(tagged image file format)**
モノクロやカラーの画像データを圧縮しないで保存するためのフォーマット。スキャナ用やグラフィックス用のアプリケーションで扱えます。

**TFT (thin-film technology)
カラー液晶モニタ ・・・・・・・・・・・・**
薄膜技術によるカラー液晶モニタ。

TTL (through-the-lens)方式
カメラ内部に受光体を置き、レンズを通ってきた光を直接測光する露出調節機構。

TTL-AUTO ・・・・・・・・・・・・・・・・・・
外部フラッシュの機能。ストロボから発光された光を、撮影レンズを通してカメラの受光体で受け、この光量調節信号をストロボ本体に発信して、発光量をコントロールする方式。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

アルファベット順

その他

12

お問い合わせ窓口

商品に関する技術的なお問い合わせ窓口

オリンパス光学工業株式会社カスタマーサポートセンター
〒192-8507　東京都八王子市石川町2951
TEL　0426-42-7499
FAX　0426-42-7486
オリンパスホームページ　http://www.olympus.co.jp/
受付日時　AM 9:30〜17:00
（土・日・祭日・および当社休日を除く）

●お問い合わせいただく前に（お願い）

- **より迅速、正確にお答えするために、お手数ですが次ページのサポート用カルテの内容をあらかじめご確認ください。**
- **FAXまたは郵便でお送りいただく場合は、所定の項目は必ずご記入ください。**

送付先：オリンパス光学工業株式会社カスタマーサポートセンター

FAX 0426-42-7486

弊社整理番号：

サポート用カルテ

お名前	フリガナ
連絡先 ご住所	□自宅　□会社 〒

お問い合わせ日　　年　　月　　日	お買い上げ日：　　年　　月　　日
製品名（型番）	
シリアル番号 （製品底面に記載されています）	

パソコンが関係する問題は、とくに正確な状況把握が難しいので、お手数ですができるだけくわしくご記入ください

●ご使用のパソコンの種類：
（メーカー・型番等）

●メモリの容量：

●ハードディスクの空き容量：

●OS名とバージョン：

●ご使用のパソコンのドライバ：

（Mac OSの場合）コントロールパネルや機能拡張の内容：

（Windowsの場合）コントロールパネル−デバイスマネージャーの内容：

●その他接続されている周辺機器名：

●問題のご使用アプリケーションソフト名：
バージョン：

●問題のご使用弊社ソフト名：
バージョン：

問題が発生したときの症状・表示されたメッセージ・症状の再現性など：
（より正確・迅速にお答えするために、できるだけくわしくご記入ください）

※FAXや郵便でのお問い合わせの際は、コピーしてご利用ください。

OLYMPUS®

オリンパス光学工業株式会社

〒163-8610　東京都新宿区西新宿1の22の2　新宿サンエービル

アクセスポイント（製品に関するお問い合わせ）

札　幌	011-231-2338	金　沢	076-262-8259
仙　台	022-218-8437	大　阪	06-6252-0506
新　潟	025-245-7343	高　松	087-834-6180
松　本	0263-36-2413	広　島	082-222-0808
東　京(八王子)	0426-42-7499	福　岡	092-724-8215
静　岡	054-253-2250	鹿児島	099-222-5087
名古屋	052-201-9585	沖　縄	098-864-2548

※上記のアクセスポイントまでお電話いただければ、オリンパスカスタマーサポートセンターに転送されます。（アクセスポイントまでの電話料金はお客様負担となります。）なお、調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間　9：30～17：00（土・日曜、祝日及び弊社定休日を除く）

※オリンパスホームページ　http://www.olympus.co.jp でデジタルカメラ及び関連製品の情報の提供をしております。

国内サービスステーション（修理受付窓口）

※土・日曜、祝日および年末年始は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

東　京	〒101-0052	千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル(オリンパスプラザ内)	Tel.03(3292)1931
札　幌	〒060-0034	札幌市中央区北4条東1の2の3　札幌フコク生命ビル	Tel.011(231)2320
仙　台	〒981-3133	仙台市泉区泉中央1の13の4 泉エクセルビル	Tel.022(218)8421
新　潟	〒950-0087	新潟市東大通り2の4の10　日本生命新潟ビル	Tel.025(245)7337
松　本	〒390-0815	松本市深志1の2の11　松本昭和ビル	Tel.0263(36)5331
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル	Tel.052(201)9571
金　沢	〒920-0024	金沢市西念1の1の3　コンフィデンス金沢	Tel.076(262)8257
大　阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター	Tel.06(6252)6991
高　松	〒760-0007	高松市中央町11の11　高松大林ビル	Tel.087(834)6166
広　島	〒730-0013	広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル	Tel.082(228)3821
福　岡	〒810-0004	福岡市中央区渡辺通3の6の11　福岡フコク生命ビル	Tel.092(761)4466
鹿児島	〒892-0846	鹿児島市加治屋町12の7　日本生命加治屋町ビル	Tel.099(225)1105
沖　縄	〒900-0015	那覇市久茂地3の1の1　日本生命那覇ビル	Tel.098(864)5396

VT303803